法輪大法

シンガポール法会での説法

李洪志

シンガポール法会での説法

李洪志

一九九八年八月二十二、二十三日

学習者の皆さん、こんにちは！（拍手、先生、こんにちは）

ここに座っているのは、シンガポールの学習者もいれば、遠路はるばるやって来た中国および他の国や地方の学習者も大勢いることを私は知っています。今回の法会の目的は、交流を通じて互いの不足を見つけ、皆一緒に速く次元を高められるように、総じて言えばこういう目的です。ところが、私たち大勢の学習者が長い間の修煉によって法に対する理解をますます深め、各自の体得したこともたくさんあり、各方面においての自分の体験もますます多くなり、そこで大勢の学習者が私に会いたいと思い始めました。あなた達の多くは当初私が中国で行なった講習会に参加したことがなく、独学してきた人たちです。それで、私に会いたいという、はやる気持ちが起こります。私も皆さんの気持ちは分かります。そこで皆さんが来ました。このような考えを抱き、来ようとする人はまだまだ多くいます。あなた達の気持ちを私はよく理解できますが、私が考えたことは、私が自ら法を伝えた当時、法を伝えることが何よりも重要だったのです。

現在、法は既に伝え出されており、本も社会に広く伝わっており、私たちの学習者は皆本を持っています。つまり、あなた達は法を学ぶことができ、修煉することができます。当時私が法を伝え、自ら講習会を開いていたのと同じ効果があり、何一つ欠けていません。今はあなた達の修煉において安定した環境があり、その中で如何に速く向上させることができるかが最も重要なことになっています。皆さんは法の学習と修煉を通じて分かるようになり、師父が本当に見守り、責任を負ってくださることを知りました。ですから、あなた達の向上も全て系統的に按排されており、一人一人に皆一つの系統的な修煉の道があります。皆さんが私に会いたいという心が揺れ動き、安心して修煉できず、或いは、あちこちに私を探しに行くようでは、あなた達の修煉の進捗に影響します。法は既に伝え出されましたが、皆さん、考えたことがあるでしょうか。あなた達の向上と修煉こそが最も重要なことです。もしあなた達が向上できず、修煉できなければ、私が伝えているこの法もゼロに等しいのです。

あなた達の修煉が一番大切である以上、如何なることもそれを邪魔してはいけません。皆さんに伝えたいのはただ一つ、心を落ち着かせて修煉し、自分に影響を与える如何なる常人の心も起こしてはならないのです。もしあなた達が本当に修煉のため、自分の境地を高めるために、他人との差を見つけ、或いは、シンガポールの学習者の修煉状況を知り、彼らの体験談を聞くことによって、如何に自分を向上させるかを考え、皆がこのように考えるならば、私はとても嬉しく思います。もちろん、皆さんが先生に会いたいということは間違っているわけではありませんが、ただあなた達のその人間としての情をあまり重くしてはいけません。いずれにせよ、常人としての心を放下しなければなりません。さもなければ、あなた達は常人の情、常人の心で私に接し、常人の考えで大法を扱うことになってしまっては、あなた達の向上に深刻な障碍をもたらすので、くれぐれもこの問題に注意してください。

在席の多くの学習者は、簡単にここにやって来たわけではなく、仕事がとても忙しいのに、時間をさいてわざわざシンガポールにやって来た人もいて、いろいろなケースがあります。ここに来た以上、他のところから来た学習者は心を落ち着かせ、シンガポールの学習者がどのように修煉しているのか、どのように向上しているのかを聞いてこれを学ぶ機会にしてください。

本来、私は皆さんの体験談を聞くために今回の法会に参加しました。しかし、なんと言っても、多くの学習者はまだ多くの問題に対して依然分からないことがあります。何故かというと、大法が世間に伝えられているので、必ず絶えず新しい学習者、新しい弟子が入門して来るので、彼らは必ずあれこれの問題を持っています。実はどんな問題でもみな本の中に答えを見つけることができるのです。しかし、一部の学習者はやはり安心できず、どうしても聞きたいと思っているので、私は皆さんにこのような機会をつくりました。法会は二日間あります。私は今日あまり多くの話はせず、主に皆さんの体験談を聞きます。明日の午後、私は皆さんからの質問に解答します。皆さんはできるだけ修煉に関する質問を多く提出してください。私は皆さんのために解答します。半日あれば十分足りると思います。法会は二日間ですが、学習者はまた体験談や他のことを予定していますので、できるだけ今回の法会を圓満に終わらせたいと思います。このような大型の法会はシンガポールでは初めてのことです。しかも外地からこんなに多くの学習者がやって来て、いろいろな方面の準備も容易なことではないのです。私が多く話さなくても、皆さんはどうすればいいか分かっており、しかもうまくできると確信しています。

これから私は皆さんに大法の全体の情勢について話します。以前私が中国で法を伝えた時、中国はまさに改革開放の時期でした。私の感じでは、人々の思想は経済発展の状態に向かっており、ちょうどこういう時、私はこの大法を伝え始めました。多くの人が長期にわたり形成された観念の影響で、大法を理解するにあたって一つの過程を必要とします。しばらく大法を学んだ後、彼らはやっと私が話したことを理解できるようになりました。後に、特に最近では、新しい学習者が法を得ることにおいて、後の者が先になるような感じを受けました。つまり、彼らは認識の感性において何の障碍もなく、すぐ受け入れ、直ちに修煉に加わり、「私は学ぶことができるのか？　学ぼうか？　述べられている道理は正しいのか？」という認識の過程がなく、このようなものはありません。つまり、これらの学習者は後から法を得たにもかかわらず、取り残されず、自分の努力で速やかに追いついて来ました。

私の感じでは、全般的に大法の情勢をみれば、大法に対する認識がますます深まり、法に対する理解もますます深くなり、大法がいったいどういうものかを本当に理解することができるようになりました。当初の人としての感情、人間の考えで大法に対処したのとは大きく変わり、確かに大きく変わり、当初とは全く違いました。つまり、あなた達は皆本当に大法の中で修煉しており、常人の情、常人の恩義に感謝する気持ち、常人の様々な観念でこの大法を考え、法を量ることはなく、そういったことはますます少なくなりました。つまり、私たちの法の常人社会における部分はますます清浄になっています。

法に圓容するとはどういうことでしょうか？　多くの修煉者はまだ分からないかもしれません。これほど大きな法が私たちを済度することができ、異なる次元、異なる境地にまで修煉させ、圓満成就までさせることができるのに、人は何故、法に圓容する必要があるのでしょうか？　実は、皆さんも考えたかもしれませんが、常人社会もこの果てしない宇宙大法の常人という最低次元における具体的な現れです。常人社会の全ての表現形式も、この法によって与えられ、創造されたものです。修煉者として私たちはこのような環境を利用して修煉します。異なる次元からみれば、皆この常人社会は良くないと思っていますが、それはやはり法によって創造された一つの次元、一つの境地です。それでは修煉の中で如何にこの次元から飛び出し、如何に常人社会の各種の行動観念から抜け出すかがはっきり分かれば、これらの障碍を突破し、上に昇華することができます。これはあなた達が修煉にあたって必ず成し遂げなければならないことです。

もしあなたが常人のものを捨てなければ、あなたの修煉を深刻に妨げるかもしれません。しかし、現在、道徳的堕落、人類の道徳観念の滑落は既に法がこの一層の衆生に創り与えた一切に変化を起こしました。そうなると、人間は常人社会にまだ何かの真理の基準が存在していることを知ることができなくなりました。この基準がなければ、人間は敢えて何でもやり、何でもやってしまい、何も恐れません。これによって社会の道徳や観念の更なる堕落がもたらされ、常人社会に様々な良くない現象や各種の犯罪が現れてくるのです。

あなた達が法に圓容することはまず良い人になることです。皆さんが良い人間になろうとする時、既に法に圓容しています。しかし、あなた達はなんと言っても常人の中で修煉しているので、この一切を超えなければなりません。あなた達自身が如何に確実に法を理解して、法の中で修煉し、正々堂々と正真正銘の修煉者になることこそ、法に圓容していることで、言い換えれば、あなたも大法を守っています。何故かと言うと、一人一人の学習者の常人社会での表れは、皆法輪大法のイメージを代表しています。こういうことではないでしょうか？　もしも、皆が最善を尽くさなければ、きっと大法に泥を塗ることになります。同時に法に圓容しているとは言えません。「私たちは大法を擁護し、法を守らなければならない。他人が私たちに悪口を言ったので、私たちはどうこう対応しなければならない」と言う人がいます。特に大法を誹謗し、或いは私たちに対して不公平であった時、多くの人は往々にして憤りのために心が穏やかでなく、相手に対して何らかの手段を採りたいと思います。彼が私たちに良くないことをし、私たちも同じように彼を扱えば、私たちは常人に等しく、彼と同じようになってしまいます。

実は皆さんに教えますが、法を守るには暴力を用いてはなりません。善と悪の両面が人間に同時に存在しています。私たちは悪の一面を排除して、ただ善の一面をもって法を守ります。他人が私たちを良くないと言うならば、私たちは自分がどのように良いかを理解してもらい、完全に善の一面をもって彼に道理を話せばいいのです。常人はいつも何かの問題に遭遇した時、すぐ何かの負の一面の方法を採る傾向があり、過激な行動を採り、或いは暴力を振るいます。私たちはそうしてはいけません。私はいつも言いますが、人が如何なる自分の観念も持たず、個人の利益を起点とせず、真心から相手のために不足を指摘し、或いは相手に何が正しいかを教えるならば、相手はきっと感動し涙を流します。

この善の力は相当大きいものです。ただ常人社会の人は常々他人に良いことを

教える時も自分の観念をもち、ひいては損失を被ることを恐れ、自分を守ろうとする心をもっています。いろいろなものが入り混じっているので、話した言葉は聞き手にとって意味合いが変わり、純正さもなくなり、その上往々にして言っている本人の感情も入っています。本当に善の心から、如何なる個人的な観念も入り混じらなければ、あなたが話す言葉は人を感動させることができます。

私がここで話しているのは、私たちが如何に常人社会で法に圓容し、如何にこの法に損失を与えないようにするかです。多くの人は社会の様々な政府部門に私たちの大法の道理を説明していますが、これは良いことです。彼が聞き入れれば、彼も良い人間になるかもしれませんが、心配なのは聞かないことです。彼らが本当に大法を調べたいならば、本を読み、法を学び、調べさえすれば、いったい私たちがどういうことをしているのか分かるはずです。良くない話をする人は往々にしてまだ私たちのことが分かっておらず、知らない人です。私たちは全てを公開しており、如何なる隠し立てもせず、歩む道はたいへん正しいのです。私がいつも言うように、まさに私たちの歩む道はたいへん正しいのですから、常人社会の中で全ての不正なもの、あまり良くないもの、ひいては不健全なものは皆、私たちを彼らの障碍だと思っています。私たちはあまりにも良いので、比べることによって一部のものはその良くないところが露呈され、しかも私たちに対して良くない働きかけをしてくるかもしれません。これは必然的なことです。もし正しいものが伝え出され、誰にも反対されなければ、それは邪なものかもしれません。（拍手）

もう一方から言えば、大法は常人社会の中で伝えられており、私たちのことが分からない人や政府部門から勝手な攻撃を受けたり、或いは勝手に定義付けられたり、またはむごい仕打ちを受けた際、これらの問題にあたって私たちは自分自身にも原因を探すべきだと考えます。どうしてこのようなことが起こるのか、私たち自身或いは輔導点、煉功場、または一部の学習者の行ないが良くなかったのではないでしょうか？　如何なることに遭遇しても自分自身をみることができれば、その人はとても素晴らしい人で、圓満成就への道であなたを妨げるものは何もないと言えます。私たちは往々にしてどんなことに出遭っても、常に外に向かって探しています。「あなたは何故私にこのようなことをするのか？」と、心の中では不公平だと思い、自分自身のことを反省しません。これは全ての生命にとって、一つの最大で致命的な障碍です。昔、一部の人はいくら修煉しても向上できないと言っていました。どうして向上できるでしょうか？　このような最大の障碍があったため、誰もがトラブルの中で自分をみようとせず、苦痛を受けて不幸

に遭ったのに、更に自らを反省し、自分のどこが間違ったのかを探すのは本当に難しいと感じます。誰かがそこまでできたら、この道、この修煉の道において、そしてあなたの永遠の生命において、あなたを妨げるものはありません。本当にそうです。私たちは皆思考力を持っており、道理を前にして、例え心の中では分かっていても、素直になれない時があります。しかし何と言っても心の中で分かっており、どちらが正しくてどちらが間違いなのかを知っています。一回目でうまくできず、二回目もうまくできなくても、それ以後うまくできます。肝心なのは如何に自我を知り、如何に正しく自身のことに対応し、自らの原因を探すかということです。

以前、多くの学習者が外部の人との間にトラブルが起きた時、或いは社会の人、または社会のある政府部門が私たちに対して不公平な扱いをする時、私たちは往々にして自分の原因を探さず、相手のことを強調します。一部の者は確かに悪くて、わざと破壊してきますが、皆さんは考えたのでしょうか。それは悪くて魔の表現ですが、その現れは偶然でしょうか？　それがその悪い一面を利用して、私たちに自分の良くない一面を気付かせているのではありませんか？　私がいつも話しているように、二人の間にもめごとが起きた時には、お互いが自分の問題を探さなければなりません。しかも、トラブルの当事者双方が自分の問題を探すべきというだけでなく、この問題に出遭った傍観者さえ自分のことを反省すべきです。そこまでできれば、目覚ましく向上していくに違いありません。

皆さんがご存知のように、私たちの生命は異なる次元のミクロ的な物質によって構成されており、相当ミクロ的なものもあります。修煉はきわめてミクロな状態の下で、言い換えればあなたの生命の本源においてあなたを変えています。絶えず表面に向かって突破し、絶えず表面に向かってあなたを変えていきます。表面まで全て変えられた時、あなたは圓満成就に至ります。私たちはこのような道を歩んでいます。そのため表面がまだ法に同化される前、あなたには異なる状態の常人の行為、常人の考え、常人のやり方が依然として残っています。これは間違いないことです。

「先生、私はかなり長く修煉しており、法に対する認識も一般の新しい学習者のような状態ではないと感じていますが、何故時には未だに良くない観念が浮かんでくるのですか？」と私に話した学習者がいます。これは在席の皆さんが思い付く問題でしょう。皆さんに言っておきますが、修煉過程において、生命の最も本源のところからあなた達を変えています。最も表面が変えられるまで、あなた

達には常人としての考えがずっと存在しています。それにはどのような良いことと良くないことがあるでしょうか？　良いことと言えば、あなたが常人の中でこの修煉環境を保つことができ、それでこそあなたは絶えず自分を高め、より速く向上することができます。一方、良くないこととは何でしょうか？　自分がいったいどの境地にいるか感じとることができません。ある時は、修煉が非常に良く、法に対する理解もとても良く、本の暗記もできた時、つまりこういう境地において基準に達した途端、直ちにあなたを隔離し、あなたが修煉してまだでき上がっていない部分と隔離してあげます。突然、あなたは「何故法に対する理解がまた駄目になったのだろう？　何故私の思想はまた悪くなったのだろう？」と感じます。このような感覚を覚えるでしょう。

人は常人の中で修煉しているので、修煉してでき上がった部分は既に正々堂々たる神なのです。そうであれば、神には常人社会での常人のような行為があってはならず、それは絶対に許されないことで、ひとたびそのような行為があれば堕ちてしまいます。あなたが常人社会の中で修煉することができると同時に、堕ちないことを保証するために、あなたがその次元の基準に達すれば直ちに隔離します。修煉してでき上がった部分は、永遠にそこにじっと座ったまま身動きもせず、如何なる念も生じず、如何なる人間としての行為にも関与しません。これによってあなたが下へ堕ちないことを保証します。あなたが絶えず修煉を積み重ねれば、絶えず向上します。私はここでもう一つの道理について話しました。つまり、修煉の過程において、あなたは絶えずミクロから自分を変え、ずっと表面まで突破していきます。表面まで完全に同化すれば、あなたは圓満成就に至ります。

ですから、修煉の過程において圓満成就になる前に、皆さんは必ず常人としての考え、常人としての表現を持っています。しかも、時には自分の考えがますます汚くなったように感じることに気付くでしょう。何故でしょうか？　多くの良くないものには根元があります。ただ最大の一層の粒子の中に存在するだけでなく、全ての異なる粒子の中にも存在しています。それでは皆さん考えてみてください。修煉にあたって絶えず表面へ向かって突破して行くにつれて、ミクロの粒子の中に存在している良くないものが、絶えず取り除かれ、更に取り除かれ、取り除かれて、残っているのは最も表面のもので、つまり最も良くないものです。しかし、それは最も良くないものですが、最も弱いものでもあります。つまり、あなたが修煉のとき自分を制御することができれば、簡単にそれらの良くないものを抑えることができます。そして思想にある各種の観念を含め、修煉によって取り除きます。

私が述べたこの道理を皆さんは理解できたかもしれません。なるほど、人の修煉にあたっては終始良くない考えが存在しているので、これからそれをそのままにしておいても、別に心配することもなく、それは好き勝手に考えさせればいいと思う人がいるかもしれません。それはいけません！　何故かというと、あなたはなんと言っても修煉者であり、表面において自らを制御しなければ、修煉していないことに変わりありません。このような関係です。私は学習者全体の修煉状態について話し、ついでに幾つかの問題に触れました。

もう一点あります。私たちの大法は常人社会の中で伝えられていますが、何故このような形式を採っているのでしょうか？　皆さんもご存知のように、私たちの管理は緩やかであり、「張某」や「李某」などと書いた会員名簿も全くありません。あなたは誰だとか、年齢は幾つだとか、どこに住んでいるとか、こういったものは何もありません。あなたが修煉さえすれば、私は見守ってあげます。修煉のものはこの常人社会の空間には反映されないので、表面的な形式はあくまで一つの形式にすぎず、何の役にも立ちません。あなたが修煉しなければ、名前の登録はただ人数を増やすことにすぎず、修煉ではありません。ですから、私たちは常人のあらゆる表現形式を完全に捨てました。

私たちは人の心だけを重視し、あなたが修煉するのであれば、私はあなたを見守ります。修煉さえすれば、あなたは私たちの学習者になります。修煉の中で、輔導員が皆さんを集めて法を勉強します。まさにこれぐらいのことだけです。常人社会のような如何なる行政的な組織もなく、お金を貯めることもなければ、ものを貯めることもありません。皆さんも皆自費でここに来ており、私、李洪志もあなたから一銭のお金も求めません。私たちがしていることもボランティアで、皆が無償で他人のために良いことをしており、管理は全て緩やかです。

私は何故このようにするのでしょうか？　皆さんに教えます。実は今日私が伝えている法はとてつもなく大きなもので、それはあなたを修煉によって異なる境地、異なる次元まで到達させることができ、これは小さいことではありません。こんなに大きな法が伝え出され、それが人を変えることができず、人の心を向上させることができなければ、伝わっても伝わらなくても何の意味もありません。これは宇宙の真理、宇宙の法であると私には分かっています。それは修煉者に対して相当強烈な作用があるに違いありません。そのため、皆さんはどうすべきか知っており、私があなた達にどうすべきか教える必要もありません。

釈迦牟尼佛が法を伝えた当時、百あまりの戒律を設けました。一説によれば、現在の大乗佛教には二百あまりの戒律があります。その目的は、この基準に符合するようにあなたを制限することであり、必ずそうしなければならないのです。今日の私たちには何の戒律もなく、完全に開放的で、あらゆる形式を重んぜず、人の心だけを見ます。それは私たちの法にはそういう威力があるからです。更に別の角度から言えば、常人社会のあらゆる表現形式もこの大法に相応しくないので、私たちは大法の伝播に相応しい形式を採りました。どういう形式なのでしょうか？　それは他でもなく「大道無形」です。（拍手）　私たちは「大道無形」の道を歩んでおり、これこそ本当にこの大法に相応しいのです。ですから、私が法を伝えた当時から今日までずっとこのようにしてきました。

唯一、見えるのは皆さんが一緒に本を読み、煉功していることだけです。それも全て完全に自由意志で、緩やかで、参加したければ参加し、参加したくなければそれでもいいのです。これはとてもいいと思います。如何なる有形のものも人の心を変えることはできません。ある人が学びたくないのに、無理やり連れて来られても、彼は学べるはずもなく、理解できないだけでなく、逆に勝手気ままに論じ、内部で破壊の働きをするかもしれません。今日、私たちはあまりにも正しく歩んでいるので、一切の正しくないものは私たちを目障りだと思うかもしれません。彼らの欠点、弱点が全て暴露されたからです。

以前、常人社会の中で、特に中国には多種多様の気功が相当多くありました。大法が伝え出されてから、特に最近の数年間、多くの偽気功が鳴りをひそめ姿を消しました。何故でしょうか？　正法が伝え出されると、これらの邪なもの、悪いもの、偽物などが完全に暴露され、白日の下に晒されます。（拍手）　もちろん、自然に鳴りをひそめ姿を消します。他の功法を習っていた人の多くが次から次へと大法を学びに来ました。私たちが人を引っ張って来たわけではなく、これらの人たちは皆法を認識できて良さを知り、これが正しい道だと分かって学びに来たのです。

もう一方から皆さんは考えたのでしょうか。正法が伝え出されると、人はそれに従って異なる次元まで修煉することができます。そこで一つの問題があります。それは、あなたがどのような法によって修煉して向上してきたかということです。これはきわめて重要な問題です。もし、その法が正しくなければ、あなたが修煉しても向上することはあり得ません。もし、その法にそれほど大きな威徳がなけ

れば、つまり、それほど大きな法でなければ、あなたはそのような高い次元まで修煉して上がることはできません。もし、その法がそれほど大きくなく、それほど良いものでなければ、本当にあなたをその次元まで昇らせたら、それは宇宙全体を乱すことに等しいのです。あなたが上に上がっても、そこに留まるのは相応しくないと自分でも感じるはずです。言葉で言い表し難いほどの威徳を持つ偉大な覚者がそこにいるのを見て、「私はどうして上がって来たのか？」とあなたは思うでしょう。ここに留まる資格がないと思い、自ら下へ降りて行きます。常人社会で、大法に魔難がもたらされた時、私たちは逆にそれを利用して法に圓容し、法の威徳を打ち立てます。常人社会の大法に反対する如何なる表現形式に対しても、私たちは同じやり方で相手に返さず、あくまで善の一面をもって全てを円満に処理します。私たちが法に対する多くの異なる試練を耐え抜いた時、この法は自らの威徳を樹立したのではありませんか？　歩む道が正しければ正しいほど、この法はますます偉大になり、あなた達はこの法の中で修煉しているので、ますます素晴らしくなるのです。このような関係ではありませんか？　その通りです。ですから、あらゆる問題に出遭う時、正と反の両方をみるべきで、自分自身の内部から原因を探し、如何なることに遭っても自分の内から原因を探し、不足を探すべきです。

私はある道理をよく話します。厄介なことに遭遇した人が、その煩わしさの中でこう呟きます。「何故、人は私にこんなひどいことをするようになったのか？何故、うまくいかなくなったのか？」。皆さんに教えますが、実は人があなたに無理なことをしたのではなく、宇宙の法は非常に筋道が通っているのです。自分がこじれると、周囲の全てが自分に合わなくなると気付きます。あなたが自分の原因を探して順応すると、その全てが再び正常になると気付くでしょう。往々にしてこういうことです。

更にもう一方で、私たちは多くの困難と不足を克服したので、法がたどる道のりはますます正しくなり、そのため情勢はますます良くなる一方です。今、大法を学ぶ人は既に相当多くなり、中国の国内と国外の学習者は一億人を超えるほど多くいるのです。しかも、大法弟子には突出した特徴があります。それは一旦修煉すると、この真理を理解し、最後まで修煉します。これは修煉において非常に大事なことです。これは歴史上のあらゆる学説、如何なる修煉とも違います。こんなに大勢の人が学んで修煉し、もう既に社会の現実になっているので、それを認めなければなりません。こんなに多くの人が良い人になりたいと思い、その上私たちには如何なる悪いものもなく、情勢はますます良くなると思います。

法輪功は中国で、以前「中国気功科学研究会」に属する一つの分会でした。しかし、気功科学研究会は科学の研究もしなければ、功法の研究もせず、更には気功そのものに対して認識しようともせず、ただ金儲けをするばかりで、各種の気功流派を利用して金を儲けています。ですから、私たちは 1996 年 3 月に脱会しました。(拍手)　脱会した後、彼らは私たちを攻撃したことがありますが、私たちは一切かまわず、相手にもしませんでした。このことはまず置いておきましょう。要するに、私たちは自分の道を歩み、本当に修煉する人が歩むべき道を歩みます。社会に責任を負わなければならず、同時に修煉する弟子に対しても責任を負わなければなりません。

私の考えでは、こんなに多くの人々、しかもみんな社会にとって良いことをもたらす良い人間であり、私、李洪志を含め、みんな自分が何かを得ようという考えはありません。政府に迷惑をかけないように、私は外国へ移住しました。(拍手)　こんなに多くの人が修煉しており、良い人になるように努めており、この一億人あまりの人を政府と対立させることは誰にもできないことです。このことについて皆さんにはっきり言えます。ところで、私たちはどんなことをしても、自分の道を正しく歩むべきです。あまり多く話すつもりはなく、ただ皆さんに大法の情勢、そして如何に修煉するか、修煉の過程での法に対する認識を話したいだけで、ついでに修煉のことについて触れました。

ついでにもう一つの問題を話します。多くの人は場所をかまわず写真を撮っています。この「写真を撮る」ことについて話したいと思います。以前、皆さんがなかなか私に会えなくて、どうしても私の写真を撮りたい、或いは先生と一緒に撮りたいと思っています。もし、本当に修煉の心によるものであれば、私は反対しません。逆に常人としての心を抱いていれば、私は大変悲しく思います！　もう一つですが、皆さんが写真を撮る時、状況や場所を問わず、イメージが良くない写真をたくさん撮りました。このようなことは私たちにとって良いことは一つもありません。あなたはなんと言っても私の弟子ですから、先生をそのように撮るのはいけないのではありませんか？　法会の後、皆さんはそれぞれの地区の学習者に、今まで撮った良くない写真を一つ残らず全て燃やし、ネガも一緒に燃やすように伝えてください。(拍手)　どうしても写真を撮りたければ、私はそのような機会を与えます。(拍手)　話はこれくらいにします。明日の午後、皆さんからの質問に解答します。

質問に解答する時、皆さんが提出する紙にはあまり多く書かないでください。字が多ければ、読む時に非常に不便で、時間を無駄にするからです。質問の前に「先生、私は如何にあなたに会いたいとか、或いは、先生、あなたの話はたいへん素晴らしくて、私はこのような質問がある」というような前置きを書かないでください。前置きはなく、直接「師父、私はこういう問題がある」のように書いてください。私はそれに解答します。簡潔であれば私が見るのも便利で時間が無駄にならず、解答するのも速いのです。それでは、これから私も皆さんと一緒に学習者の体験談を聞きます。（拍手）

今日の午後、私は皆さんに法についての質問に答えます。質問があれば、紙に書いて提出してください。それでは、これから質問に解答します。

弟子：法会で録画、録音した説法のテープを中国国内に送ってもいいですか？

師：原則として問題はありません。しかし、あなた達はどうしても何かを伝えようとしています。その心を放下し、正々堂々と修煉すべきです。何故こんなにたくさんの歓喜心、執着心があるのですか？　これらの全てはあなたを圓満成就させることができますか？　自分で見るのはかまいませんが、複製してはいけません。

弟子：「根を掘る」という経文の中で、「私は皆さんを人間と決別させようとしているのに、皆さんはかえって私について来ようとせず、一回一回の機会はいずれも二度と訪れないのです」とおっしゃいました。もしこんな機会を失ったら、到達すべき次元に影響しますか？

師：重大な試練に直面する時、様々な方面が絡んでおり、その一つの形式に留まらず、私たち学習者にとって根本から一つの最大の試練になります。人間から抜け出すことができるかどうかということは圓満成就できるかどうかの最も重要な一歩であり、必ず歩まなければならない一歩です。私たちの学習者はきっとあれやこれや様々な試練を受けます。チャンスを逃したら圓満成就できないのでしょうか？　チャンスはまだあるかもしれませんが、もう一回チャンスにめぐり会えるのはとても難しいと思います。何故かというと、いろんな機縁がめぐり会って、はじめてようやくこのような機会が生じます。実は、あなたは如何に修めても肝心な時にやはりだめなのです。言い換えればこういう意味です。私があなたをだめというからだめなのではなく、あなた自身がだめだということです。「先生、私

はどんな難関でも切り抜けますから、どんどん試練を与えてください。私は速く上へ修煉していきます」と思っている人がいます。しかし肝心な時になると、あなたはやはりだめです。口で言うほど簡単なことではなく、実際の修煉の中であなたがどのように対応するかを見ます。

弟子：師父、「真・善・忍」が異なった次元において生み出した他の法理について更に話していただくことはできますか？

師：それはだめです。どうしていけないのでしょうか？　天理は絶対に人に話してはいけないからです。あなた達はなんと言っても人間として修煉しており、修煉してでき上がった部分は教えなくても分かりますが、人間としての部分はどうしても好奇心を抱いて物事を考えています。もっと高次元の理を悟り得たとしても、人に話せるものではありません。あなたが悟り得た高い次元の理を再び他の人に話すと、その意味が変わり、またとてもありふれた平易な理になってしまうことに気付くでしょう。要するに、高次元の理は修煉にあたって心で悟ることはできますが、言葉で伝えることはできません。

弟子：どのように先生の設けられた難関と悪魔の妨害を区別したらいいのですか？

師：あらゆることは孤立して存在しているのではありません。修煉者にとって、修煉を始めた日から、あなたの辿る道は既に変わり、如何なる偶然なこともありません。しかし、全ての魔難が現れる時、皆ある種の偶然という状態で現れてきます。それでこそ、あなたを試し、あなたの向上を促進することができ、自分の不足がみえて、違いを見つけることができます。ところで、本当の魔は存在しているのでしょうか？　確かに存在しています。しかし、それも孤立して存在しているのではなく、それが良くないものなので、必ず飛び出してきます。飛び出せばそれでよく、私たちはその良くない一面を利用して学習者に試練を与えます。皆さんもご存知のとおり、亡くなった学習者がいます。亡くなった人の中で圓満成就に至った人もいれば、わざと法を壊しに来た人もいます。ですから、私はこのことについて何の態度も示さず、何の話もしませんでした。しかしそのことの発生は、私たちの学習者にとっては一つの生死の試練だと私は思います。あなた自身に起こっていなくても、やはり自分自身に起こったように、あなたは絶対そういうふうに感じます。それはまさに生と死という瀬戸際の試練です。一人の人が生死を放下できなければ、絶対に圓満成就に至ることはありません。

しかし、私たちは必ず全員が生死の瀬戸際の試練を経験しなければならないのではなく、そうではありません。あなたは長い修煉の歳月の中で既に基礎を築いており、徐々にそこまで達したからです。執着心が少なければ少ないほど放下できるものが多くなり、あなたは自分が全てに無関心になったと気付くでしょう。実はあなたは既にそのような条件を備えました。そこで正念場になる時、試練が出てくることがあります。例えば、この前北京で起こったことのように、あなたはこういう一歩を踏み出すことができるかどうか、或いは学習者がその場で突然死んでしまっても、あなたは依然修煉し続けることができるかどうかを見ます。あらゆる面での試練は皆あなたを試し、あなたが乗り越えることができるかどうかを見ます。亡くなった人が必ず魔とは限らず、必ずしも佛とも限りません。そのうち、圓満成就を迎えるべき人がいて、そこで彼を利用して皆さんを試しているかもしれず、彼が本当に魔であるかもしれません。私たちもこのことを利用して、あなたが依然修煉し続けるかどうかを見ます。あなたが放下できるかどうか、本当に乗り越えられるかどうかは何よりも重要です。ですから、如何なる偶然なことも存在せず、発生した如何なることも全て直接あなたを試すものです。

弟子：どうすれば、法を悟り得た人の一面をもって魔の一面に打ち勝つことができますか？

師：一正は百邪を圧します。魔からの妨害が存在するのは私たちにまだ不足があるからです。自分がしっかりしていればそれに打ち勝つことができ、師も面倒を見ることにします。今の段階であなたが直接魔と闘うのは、まだ力が足りません。私がこの間、皆さんのために書いた『精進要旨』の中の一編は、あなた達の今の一面のために書いたのではなく、あなた達が修煉してでき上がったその一面のために書いたものです。肝心な時、その一面にも少し作用してもらわなければなりません。もちろん、その一面はあなた達と同じであってはならず、如何なることにおいても、あなた達と同じように行動しては絶対だめです。神は絶対に人間と同じようなことをしてはなりません。魔が破壊しに来るような状況下では、その一面が作用することは許されます。

弟子：先生は「私は『真・善・忍』の中にいません」とおっしゃいました。どう解釈すればいいのでしょうか？

師：私はあまりにも高い次元のことを話したくなく、自分のことも話したくあり

ません。私がそのことを言い出したのは、一部の学習者がどうしても信じきることができないので、私は少し根本的なことを説きました。どう理解すべきでしょうか？　実は簡単ですが、はっきり説明してはいけません。宇宙が衆生のために創造されたものである以上、宇宙には一つの特性が存在しており、それは他でもなく、「真・善・忍」です。しかし、異なる次元において「真・善・忍」から異なる次元の法が生み出され、異なる次元の生命の環境と、様々な要求を創り出すことができます。つまり、下へ行けば行くほど、法は複雑になっていきます。このような関係があります。

弟子：科学の基点が既に間違っているとすれば、私たち科学を教える教師は、どうすれば適正な態度を採ることができますか？

師：現在の科学は宇宙人が人類に押し付けたものです。あらゆる歴史時期の人類、あらゆる文明時期の人類にこんな科学はありませんでした。社会全体が動かされ、あらゆる人が皆その中に潜り込もうとし、親は皆自分の子供を大学へ行かせようとしますが、こんなことは歴史上でみられませんでした。神は人類社会の発展を按排しています。例えば古代の中国では、ある神が命じられて地球に来て紙を造り、また別の神が地球に行かされ羅針盤を造りました。彼らがこういうことをしたので、皆がそれを用いることができます。社会全体で動き出す必要もなければ、いわゆる科学も必要ありませんでした。みんながその中に潜り込もうとする変異した生命が造り出され、これは歴史上で存在しなかったことです。しかし、それは既に現在の社会の現実になってしまい、あなたが生きていくには、この現実に符合するしかないのです。生存のために、現在このようにするしかありません。学習者としてどんな職業に携わっていても、今まで通り自分の仕事を続けてください。あなたが科学を教える教師であれば、科学を教えてください。問題はあなた達がどうすべきだということではなく、私が話すのは一つの道理で、真実を教えているのです。

　一つの例を挙げます。この宇宙人を処分した時、私は「あなた達は人類を変異させました。あなた達がしていることはひどく人類社会を破壊し、人類の思想も変異させました」と宇宙人に言いました。それらは理に窮して、「あなたも私たちのことを利用しています」と言い返してきました。もちろん私も車に乗り、現代の道具を使っています。「現在、馬に乗るという環境はもう存在せず、皆あなた達に壊されました。そうではないでしょうか？！」と私は言いました。私たちはそれを我慢するしかありません。そうでしょう。皆さんも今はこういうふうにすれ

ばいいのです。未来の科学はこのようなものではないでしょう。今までの科学によって下された定義は多くのことに対して全く解釈できず、現在徐々に覆されています。絶えず新しい天体の変化が発見され、生命の存在の秘密も絶えず明らかにされています。私に言わせれば、今までの科学は揺らいでいます。

弟子：人間は複雑で雑然としているので、派生してきたあらゆる物質を修煉によって取り除き、はじめて自分の本源の境地に回帰することができます。

師：人が生まれた時は非常に純潔で、後天に形成された如何なる観念もありません。それは子供がまだ社会と接触していないからです。そのため私は子供を見るのがとても好きです。彼はわんぱくですが、とても純粋で、何もなく、如何なる考えもありません。人が生まれてから生存のために、そして自分の利益を守るために、徐々に多くの観念が生じてきます。自分のために、わざとたくさんの悪いことを働きます。そうすると、後天的に形成された観念は皆先天の本性と対立していきます。つまり、人が複雑になり、その清らかな心、思想は様々な後天的な不純物によって、ますます汚染されていきます。本源の境地に戻るには、全ての後天的に形成された良くないものを取り除かなければなりません。人間のところのものだけでなく、どの境地においてもあなたがその境地に戻るには、その境地に相応しくないものを全て取り除かなければなりません。そこまでできて、あなたははじめてそれほどの純粋さを取り戻すことができます。頭の中の考え、心性、そして身体を構成している物質、更に生命まで、全てその高い純粋さにまで達しなければなりません。

弟子：如来佛の釈迦牟尼佛には娑婆世界があると言いながら、まだ釈迦牟尼佛が大梵世界にいるということは、どう理解すればいいでしょうか？

師：そのとおりです。佛教では釈迦牟尼が娑婆世界にいると言います。それも本当のことです。釈迦牟尼は人を済度するため第六層の宇宙から世間に降りて来ましたが、その最後の自分の世界は大梵世界です。彼は大梵世界から降りて人を済度した後、二度と帰らず、ずっと三界の中で自分の弟子を見守っており、二千年あまりずっと自分の弟子を見てきました。彼の弟子たちは輪廻を繰り返し絶えず次元と境地を高め、自分の威徳を積み重ねながら法が正される時を待っており、最終的に法に同化して圓満成就します。娑婆世界はつまり三界のことです。佛教の弟子たちは、彼がずっと娑婆世界にいると気付き、釈迦牟尼佛は娑婆世界にいると言うのです。大梵世界は、彼が世間に降りて来る前にいた最後の佛の世界で

す。実際、彼にはこの一つの世界だけでなく、異なる更に高い次元にも彼の世界があります。あなた達は人の考えをもって天上のこと、佛のことを想像してはいけません。永遠に想像できないのです。私が皆さんに知識を探究しないように要求するのは、あなた達が今持っているのは人間の思想だけなので、いくら探究しても分からないのです。というのは、人の思想は非常に劣っているからです。

弟子：六道輪廻では、何故六道というのですか？

師：佛教では昔から修羅道とか、畜生道とか、人道や天道などと言っていました。皆さんに教えます。それはどんな道であろうと、全て三界内にあり、人、動物、物質、植物および三界にある他の空間の生命体との間の相互の輪廻です。世間にいた時の人の良し悪しによって生じた因果関係に基づいて、報いが決まります。善の報いであるかもしれず、悪の報いであるかもしれません。つまり、悪いことを多くすれば、畜生道に生まれ変わるかもしれず、地獄に堕ちるかもしれません。良い行ないを多くすれば、あなたは天道に生まれ変わります。ここで言う天とは三界内にある異なる次元の天のことであり、同じく三界の範囲内のもので、やはり輪廻の中にあることに変わりありません。或いは人類社会で高官になり、大金持ちになるなど幸せを享受します。それは全て良い行ないをしたため得られたものです。これは福報と言い、善報とも言います。

弟子：一部の站長は長い間その任にありますが、常人の観念を捨てず、既に故意に或いは無意識のうちに煉功場に来た新しい学習者に影響してしまいました。

師：残念ながらそれは事実です。一部の煉功場で輔導員のすることがうまくいっていません。これらの問題は戒めとすべきものです。私が書いた『精進要旨』の中の多くの文章は彼らのために書いたものですが、彼らは読みません。もちろん、輔導員の仕事はとても骨が折れることで、皆さんのために仕事をしなければなりません。しかし、足りない部分は何でしょうか？　それは彼が自分の仕事を修煉と結び付けず、何らかのトラブルに遭う時、或いは何らかの障碍に遭う時、法をもって判断することができません。他の学習者からの協力が得られない原因、或いは、直面する様々な障碍の現われは、自分が何か間違いをしたことによるのではないかと、それを探すことができません。このことについて多くの輔導員はこのように自分の問題を探すことができません。そのため、私たちの法がそのことで大きな損失を受け、新しく来た多くの学習者が法を得る上での障碍となっているので目を覚ますべきです。

一部の輔導員は学習者に対して非常に横柄な態度をとっています。それは大法において絶対許されないことです。皆さん考えてみてください。この法を学びさえすれば、私の弟子です。あなたも私の弟子であり、彼も私の弟子なのに、あなたは何故彼にそんな横柄な態度をとるのですか？　私たちは善の心を重んじ、人に対して善の心を持たなければなりません。私がいつも話しているように、もし、人が如何なる自分の観念も持たずに他の人と話し、相手の欠点を指摘したり、相手に何かを教えたりすることができれば、相手はきっと涙が出るほど感動します。あなたに如何なる私心もなく、何かを得ようともせず、更に自分の何かを守るつもりもなく、本当に善意だけから相手のためを考えるのであれば、どんな人であっても、相手は本当にあなたの心が分かります。ところが、多くの場合、私たちが仕事をする時、そうではなく、命令で強制します。これではいけません！　それは、法の中のものではありません。

弟子：大法の修煉者でありながら法に同化せず、嘘を言うことが理解できません。

師：嘘を言うのは間違っています。修煉者も常人としての心を持っており、その人も圓満成就するまでは、必ず常人としての心があります。しかし、私が皆さんに言っておきたいことは、学習者であれ、スタッフであれ、彼らに最も現れやすいのはまさに、まだ取り除かれていない執着心、常人の中で放下されていない心です。それらの心が最も現れやすいのです。何故でしょうか？　それは彼らが修煉して良くなった心、取り除いた心はもう存在しないので、再び現れることはありません。そのため、依然として残っている心が特に目立って現れ、皆にみえます。しかし、皆さんに教えますが、その人が良くないと言ってはなりません。実は、彼は既にとても素晴らしくなっています。ただ彼の取り除かれていない心がまだ作用して、仕事や学習者に良くない影響を与え、現れてきた状態は多くの人にもみえます。ですから、問題を考えたり人を判断したりする時、常人のような見方をしてはいけません。逆に自分は修煉して良くできたと思い、まだ取り除かれていない心が依然として存在しているのに、自分に甘くなってはいけません。一旦トラブルが起きたら、必ず内に向けて原因を探さなければなりません。

全ての弟子、あなた達は今後トラブルに出遭う時や、人と人との関係の中で、或いは法を学ぶ時、弟子たちの間でどんなもめごとがあっても、「私のどこかが間違ったのではないか？」と自分の内に問題を探すべきです。皆がこのようにすべきで、自分の心を修めるべきです。あなたが自分の心を修めず、外にばかり目を

向けて、人の欠点を探しているのでは、どのように自分を高めるというのですか？他の人は良くなり、あなたは人の欠点ばかりを指摘し、人は修煉して向上しましたが、あなたは相変わらずそのままです。ですから、皆さんに教えますが、あらゆるトラブルが起きて、とても不愉快に感じる時、他でもなく、あなたは自分の内に原因を探すしかありません。原因は間違いなくあなたの内にあります。昔、佛教では佛が心の中にいると説いていました。人々は理解できず、それを形式としてとらえ、自分の心の中に本当に佛がいると思ってしまいました。実は、それはあなたの心の中で修め、あなたの心を磨いて、自分の弱点、欠点を見つけ、全て根こそぎにしなければならないということです。あなたの心性が基準に到達できなければ、絶対に圓満成就には至りません。それならば、何故自分の心を修めようとしないのですか？　何故自分を磨こうとしないのですか？　私が皆さんに与えた最も速く向上する方法は、トラブルの中で自分の弱点を現すことです。ところが、あなた達はトラブルに遭った時、それを押し戻し、人の欠点ばかり指摘し、自分のことを反省しません。それでは何が修煉だというのですか？　これこそ、私が皆さんに与えた最も良い向上の方法なので、皆さんは必ず自分の観念を改めてください。学習者が嘘を言うことに至っては、確かに一部の人に現れた心性は良くないものです。このような人に対して、もし助けることができれば、その人のために指摘してあげてください。しかし、本当の向上はやはり本人次第です。彼自身が法を学ばなければ、何の問題も解決できません。逆に言えば、向上は彼自身のことです。彼が後れをとってしまい、向上したいと思わなければ、向上できないのはやはり彼自身です。

弟子：神としての一面、人としての一面と、主元神、副元神との間にはどんな関係がありますか？

師：常人には神としての一面がありません。本当の修煉者だけにありますが、それも大法の修煉という形式の中で言うことです。何故かというと、私たちは生命の最も本源からあなたを変えており、逆方向から修煉するのです。この方式がわりと速いのです。常人社会で最大限に常人の状態に符合しながら修煉することができると同時に、直接この複雑な環境の中で人の心性を高めることができるので、一番速い修煉方法なのです。私たちは大法の中でミクロ世界の部分が既に法を得ました。それでは基準に達した部分の粒子、ミクロ世界の粒子から構成された身体は、既に神としての一面、佛としての一面、或いは道としての一面に属することになります。人としての一面は、今自分で見ている自分のことです。あなたの身体の表面さえも、最終的に修煉して変わり、圓満成就すれば、あなたには人と

しての一面も存在しなくなります。人としての一面が存在しなくなって、全てが神の一面に同化すれば、あなたは圓満成就に至ります。そうすると、身体の変化に伴ってあなたには完全な悟りの状態が現れ、根本的な変化が起こります。それはあなたが想像しようとしても、あなたの思想では全く想像できないのです。それはなんと偉大で、殊勝で、壮麗な光景でしょう。元神と副元神の関係については、人体の仕組みを説明した時、既に話しました。ここで時間を費やしたくないので、自分で本をよく読んでください。

弟子：悪の念が浮かぶと既に悪業を造ったことになり、善の念が出ると善業を積んだことになるのでしょうか？

師：そうではありません。先ほど私はこの問題についても話しました。業というものはただ常人社会、つまり世間でしか現れません。あらゆる物質には正反両面があります。佛がいれば魔もおり、人がいれば鬼もおり、良い人がいれば悪い人もおり、信じる人がいれば信じない人もおり、支持する人がいれば反対する人もいるのです。人間にしても男性がいれば女性もいます。全ては対立し、みな陰と陽の関係が存在し、それはつまり相生相克という関係なのです。人が悪いことをする時、間違いなく悪業を造ってしまいます。彼に生じた考えも悪い念です。佛教では、善業と悪業に分けています。私が気付いたのは、人が言う善業にも正と反の両面が存在しているのです。ですから厳密に言えば、それはまだ適切ではないと思います。

現在の佛教は、末法時期の佛教なので触れたくありません。歴史上、比較的良い時期の佛教について話しましょう。それはまさに修煉の団体でした。皆は善の心でその修煉の団体を守っていました。誰かがそれを破壊しようとしたり、攻撃しようとしたりした時、彼らも相応の方法で自分たちを守りました。彼らにも負の一面、即ち悪の一面が存在していました。相手が寺を壊そうとすれば、相手と命がけで闘うかもしれません。僧侶や弟子たちを傷つけようとすれば、相手に力で立ち向かうでしょう。つまり良いことにも、終始負の一面、即ち悪の一面が存在しています。ですから、彼の言う善業と悪業は、漠然と言うだけなら構いませんが、厳密に言えばまだ不完全です。

私たちは正反二つの物質の適切な現れと真実の反映をはっきり説明できるように、その最も良い部分、人にとって最も有意義な部分、修煉者にとって直接功に転化できる最も有益な部分を「徳」と言っています。実際、それはまさにその徳、

つまり、私たちがいつも言っている徳のことです。業に関しては、悪業といわゆる善業の中の悪い部分、悪い一面のもの、負の一面のものを、私たちは全て「業」と言います。この言い方はより適切です。人の思惟が何かの念を浮かべることについては、もし常人が悪い考えを浮かべ、悪いことをしようと思っていても、まだ行動していないか、或いは悪い結果が生まれていなければ、業を造っていません。行動しなければ業は生じませんが、してしまえば業を造ってしまいます。このような業力が人の身体や身体の周りに存在する場の中に反映され、悪い考えを浮かべれば自分の思惟の中に思想業が生まれます。これが、修煉者が人を罵ったり、修煉に反対したり、信じなかったり、或いは修煉の心が動揺したりするような考えが生じる原因です。それがあなたを邪魔しています。

坐禅する時、あなたがあれこれと妄想に耽り、思想が妨害されるのは、まさにこれらのものが作用しているからです。はっきり言うと、こういうことです。昔の僧侶、つまり古代の僧侶は殆ど寺の中におり、複雑な社会と接触せず、彼の思惟は比較的単一なのです。その上、いつも坐禅したままなので、彼の思惟はとても単一で、自己の利益を守る如何なる考えも生じないので、思想業力の生成および思想業力からの邪魔は減ることになります。ですから、昔の僧侶たちがいつも閉じこもって坐禅していた本当の目的は静かに修めるためです。「修は己にありて、功は師にあり」なので、その法門或いはその天国世界の師が見守っており、彼が静かに修める時、師は彼の思想業力を取り除きます。同じようにあなた達の思想業力も私が取り除いてあげます。あなた達が自分で取り除くことはまず不可能なことです。

弟子：思想業を排斥しましたが、時にはそれが長く続きます。どうすればもっと上手にそれを取り除くことができますか？

師：どうすればもっと上手にそれを取り除くことができますか？　この言い方では近道を探し、簡単な方法を求めているということです。あらゆる状態は孤立して存在しているわけではなく、業は自分が造ったもので、修煉でそれを滅する時、苦しみに耐えなければなりません。苦しみに耐えながら自分を高め、その上あなたの意志がしっかりしているかどうか試します。もし、いっぺんに取り除いてあげたら、あなたは修煉するものがなくなってしまいます。着実に本当に自分を変えなければ絶対にだめです。あなた達がその基準に達することなく天国世界に入ってしまうと、威厳のある偉大な覚者がそこに座っているのを見て、おじけづいてしまいます。「あっ、私は修煉が足りない。ここにいる資格などない」と自分自

身がそこにいる資格がないと分かります。ですから、私たちは修煉の過程で一歩一歩着実に進まなければならず、基準に達しなければ、絶対だめで、関門を乗り越えることはできません。

それでは思想業を排除できない時には、どうすればいいでしょうか？　皆さんに教えます。人の思想観念は一世だけで生じるものではなく、何回も生まれ変わって積み重ねてきたものです。それはあなたの身体の表面だけでなく、とても深い部分にまで存在しています。どうすればいいでしょうか？　実はあなたが絶えず修煉することこそ、それを弱め、取り除き、既にこのようにしているのです。あなたが圓満成就に至る前、あなたの思惟にまだ業力が生じ、そのものが依然として存在します。従ってあなた自身が何とかしてそれを抑制し、克服することこそ、まさに修煉そのものです！　あなたがなおざりにしては修煉とは言えません。しかし、この思想業力は人への妨害が特に大きいのです。思想業力が大きい場合、甚だしいときには人を妨害して煉功できなくなります。よく本を読んでください。本の中に法があり、そして法の中には私が皆さんを助けてあげる一切のものが入っているので、業力を取り除くことができます。

弟子：試練がきた時、心性が守れませんでしたが、次の試練は、前のものより難しいのでしょうか？

師：この問題について『轉法輪』の中で既に述べています。つまり、修煉にあたって自分が修煉者としての自覚をもたなければ、師が設けた自分を高めるための関門を突破できず、長期間そこに留まってしまいます。しかし修煉は人を待ちません。この一難を乗り越えなければ、続いてもう一難がやってきます。あなたを向上させなければならないからです。前の難関をまだ乗り越えていないのに、更にもう一難がやってきて、二つの難が重なれば、あなたはどうやって乗り越えることができますか？　そのために彼はなおさら悟れず、なおさら乗り越えることができません。その上更にもう一難がまたやってきたら、越すことのできない死の関となってしまいます。根本的に変わらなければ、通過することはきわめて難しいのです。難は積み重なることもあります。そんなものがたくさん積み重なったら、あなたはどうやって乗り越えますか？　ですから、皆さんは必ず自分を煉功者として自覚しなければなりません。

一部の人は、最初病気を治療するために大法の中に入って来ました。私たちは反対しません。というのは、大法を認識するには一つの過程があるからです。後

になって、彼は「なるほど、大法は病気の治療をしない。しかし、修煉者として、私は病気のある身体では修煉できず、功も出ない」と分かりました。どうすればいいでしょうか？　彼は「分かった。考えないことにしよう。先生に病気治療を頼まず、病気治療も考えない。修煉さえすれば、先生は必ず私の病気を治して下さる」と、やはり心の底でかすかに考えています。それでは根本的に変わったと言えますか？　違います。表面の華麗は偽りです。人は本質から自分を変えなければ、基準に達することはできません。覚者や高次元の生命は非常にはっきりとそれを見ており、少しも隠すことができません。彼は基準に達しておらず、根本から変わらず、最後まで依然としてそのような心を抱いています。ただ、その心はなお曖昧で、よりはっきりしないようになっただけです。ところが彼の修煉に責任を負っている覚者には、はっきりと見えているので、彼は誰を騙しているのですか？　結局自分を騙しているのです。ですから必ずその心を放下して、本当に修煉者としての基準に達しなければなりません。放下できなければ、この問題は長引いて、ずっとこの難の中に留まることになります。この問題はかなり深刻で、いつもこのような学習者がいます。

弟子：修煉者は富に執着せず、徳を積もうとせずただ守るだけです。先生の経文「富ありて徳もある」は精進していない弟子に対する最低の要求基準でしょうか？

師：修煉者としてそれには執着しません。如何なるものにも執着しないからと言って、あなたには何もないというわけではありません。財を求め、財を儲け、お金に執着する心を無くしたからと言って、あなたに財がないわけではありません。徳を積もうとせず徳を守ろうとするのは、修煉者として私たちの今世今生に残る時間がもうあまりないからであり、至るところで良い行ないをしようとしても、それらの有為のことはあなたに心性の向上、真の修煉をもたらしてくれるでしょうか？　できません。だからこそあなたは速く修煉し、自分自身を根本的に変えて、はじめて圓満成就できるのです。また、常人社会の多くのことには因縁関係があり、その恩その怨の全てが歴史上積み重なってきたので、あなたが関わろうとしても、その因縁関係が見えず、表面的なことしか見ていない可能性が大いにあり、間違ったことをしかねません。常人は常人社会という次元の理に符合さえすれば、間違って関わってもかまいませんが、あなたは修煉者なので、より高い基準が求められます。あなたが間違ったら些細なことではすみません。あなたは責任を負わなければならず、功を失い、次元も下がってしまうことになります。このようなことを繰り返していたら、どうして圓満成就できるでしょうか？　で

すから､徳を積もう､徳を積もうとばかり考えてはいけないと言っているのです。あなたは修煉さえすれば、苦しみを嘗めて修煉していく過程で、あなたの修煉に必要な一切の物質が転化して得られます。あなたはそういうことをする必要がなく、足りない物質は全て補うことができます。わざわざこのようにする必要はなく、ただ人心を見るだけです。

本当の修煉は人の心を見ます。あなたの心が佛のほうにあって、その心が修煉の基準に達していれば、全てをしてあげることができます。業力に満ちた人は、私から見れば骨まで黒くなっているのに、常人のあなたはどうして自分自身に本質的な変化を起こさせ、佛の境地に達することができるでしょうか。どれだけ徳を積んでも、どんなに良い行ないをしても、生々世々にしてきたそれらのことを変えられるでしょうか？　根本的に変えることは不可能です。徳を積むことは修煉ではありません。修煉になりません。ですから、あなたにできることは時間を無駄にせずに修煉するだけです。あなたの心だけを見ます。あなたが修煉さえすれば、一切の問題を良いことに転化させ、悪いことが良いことになります。あなたが造った如何なる業力も、あなたは責任を負うべきですが、私がそれらのことを全て解決してあげます。例えば、あなたは生々世々にたくさん殺生をし、多くの生命を傷つけ、害を与えていたならば、あなたは命で一生また一生という具合に償わなければなりません。あなたは絶えず転生して命で償っても間に合いません。ましてや修煉どころではないでしょう？！　もし、あなたが圓満成就したあと、あなたの世界を完成させる時、あなたの害した生命をその世界の衆生として済度すれば、それは良いことではありませんか？　それで業も返せますが、誰がそういうことをしてくれるでしょうか？　あなたを済度する人しかそういうことができません。また、あなたを済度する人がそういう能力を持っていないとできません。借りになっている業をあなたは返さなければなりませんが、その形で業を返したことになります｡しかし､あなたが佛にまで修めることができなければ、これらは全てあなたの業力であり、永遠に償うことはできません。まさにこういう関係にあるわけです。そんなことにとらわれず、ひたすら修煉していけば師は全てをしてあげます。

弟子：一部の学習者は法を破壊する幾つかのことを聞き入れて信じていましたが、今は後悔しています。これらの人たちはまだ圓満成就できますか？

師：修煉の道においては、人は必ずしも全ての関を順調に越えられるわけではなく、過ちを犯すこともあります。全ての関を順調に越えられたら、あなたはもう

それ以上修煉する必要もなく、もう圓満成就できると言えます。ある関は順調に越えることができても、別の関はうまく越えられません。しかし、あなたは後悔することを知り、次は良くなるように頑張ることができます。このようによく越えられたり、越えられなかったりします。七転び八起きです。これこそ修煉です。（拍手）　しかし、これで喜んだりしないように言っておきます。あなたは「それならば、どうせうまく越えられたり、越えられなかったりするのなら、私が今、しているようにゆっくりしても修煉だ」と思うかもしれません。だめです！　あなたは精進しなければなりません。あなたが怠けたり精進しなかったりすれば、その心が私に見えます。そんなことをすれば、あなたは自分に無責任なことをしたと同じです。ですから、あなたは自分自身を本当の修煉者として厳粛にこの問題に対処して、はじめて次元を速く高めることができます。

弟子：専修弟子として朝晩の勤行などに参加することは修煉に影響を及ぼしますか？

師：私はできるだけあなたに影響を及ぼさないようにします。私たちの中には寺院の僧侶や道士、或いは他の宗教などの多くの人々が大法を学んでいます。私は一つの道理を言っておきます。如何なる宗教、如何なる常人社会の形式も問題にするわけではありません。私たちはただそれを常人の仕事と見ているにすぎません。佛は何も面倒を見ず、ましてや済度しないわけですから、それは常人社会の一つの形式にすぎないのではありませんか？　私もそれを一つの仕事として見ています。そういうわけで、私たちはそれを気にしません。寺院へ行って和尚の行ないを改めさせなければいけないとは言っていません。私たちは人心を見るだけです。あなたがどんな境地、どの次元、どの社会階層にいようとも、人心を見るだけです。高官に学ばせたら、彼は多くの人にこれを学ばせることができると思う人もいるかもしれませんが、私にはそういう思いはありません。彼が人に命令して学びに来させても、それは本心で法を得に来るのではありません。私はそういう人はいりません。ですから、あなたがどの階層にいようと、私は人心を見るだけです。あなたが宗教界の人であっても、私は人心そのものを見ます。皆が衆生なので、修めることができる人であれば、私はその人に対して責任を持ちます。修煉したくなければ仕方がありません。

　以前は宗教においてもそうでした。佛は宗教を認めません。宗教は常人が作った名前です。釈迦牟尼は当初、僧侶による団体の修煉形式を作ったときもそれを宗教とは言いませんでした。佛も人心を見るだけで、人が守ろうとするその形式

とは無縁でした。守ろうとすること自体も執着で、全て常人が捨てきれないものであり、真に佛を修めるためのものではありません。佛を修めることは、誰であろうと、修めさえすれば、私は彼に責任を持ちます。私はそれを衆生の最も純粋な心、真に善に向かう修煉の心として見ます。それが見えて、はじめて私はその人に対して責任を持つことができるのです。居士或いは一般の人であれば、朝の勤行や夜の勤行、昔の経文を読むとか、経文を朗読するとか、聖書を読むとか、そういったことをしないで大法の修煉に専念してください。これは厳粛なことです。しかし、出家した人や神職の人は取りあえずしてもいいのです。私はそれをあなたの仕事としてしか見ていません。元々責任を持つ神佛がいないのですから、ある次元に到達すればあなた達は自分がどうすればいいか分かるようになるはずです。私は最も便利な門を開いており、ただ人心を見るだけです。（拍手）

弟子：弟子たちは圓満成就して上がった後でも、師父の説法を聞くことができますか？

師：あなたはまだ人の考えで神のことを考えています。言っておきますが、その時あなたの弟子はあなたの説法を聞くことになるのです。あなたの修煉の歴史は、あなたの未来の威徳を樹立する偉大で厳かな法になります。あなたは表面上他の人と変わるところなく常人社会で修めていますが、あなたの知らないそれらのことは全て記録に残ります。あなたが感じたか否かに関わらず、全て記録に残ります。それらはあなた自身が立てた威徳になるのです。実は、佛は佛の世界においても説法します。その境地における衆生が守るべき道理以外に、主に異なる天国世界にいる佛の修煉の物語を話します。とても感動するのです。それを聞く天国世界の衆生も涙を流します。ですから、私たち一人一人の修煉は必ず基準に達しなければならないのです。

弟子：修煉していない家族が大法を攻撃する本を買ってしまいました。それを廃棄したいのですが、その中に師父の写真がたくさん入っています。

師：廃棄するならすればいいのです。私たちのこの本も、白い紙に黒い字が載っているだけの一冊の本です。私の法身がその上にいなければ、インクで印刷されたにすぎず、その中には何の内涵もありません。燃やすなら燃やせばいいのです。そういう意味です。もちろん、あちらにあるものは燃やせません。常人の火があちらまで届くことはないので、問題はありません。

弟子：先生はこれほど多くの法理を話されましたので、どこから修煉を始めればいいか分かりません。

師：たぶん新しい学習者でしょう。少し戸惑っているようですね。実は非常に簡単で、何の規則も戒律もありません。あなたはただ本を読んでいけば、何をすればいいか分かり、ますますはっきり分かるようになります。大法に対して感性の認識から理性の認識へと昇華するにつれ、あなたは更に何をすればいいか、なお分かるようになります。「忍を先に修めるか、それとも善を先に修めるか？」というように、必ずその具体的なものから始めなければならないということではありません。そういうことではありません。しかし、あなたは必ずしも全てのことがよくできるとは限りません。一口食べればすぐ太るというようなことではなく、修煉も一日で成佛することは不可能です。本さえ読んでいけば、何をすればいいか分かるようになります。

弟子：私はいくら修めても、自分の話し方、善なる心と話す道理によって人を感動させるほどの次元に達していないと、悩み悲しんでいますが、どうすればいいでしょうか？

師：無理やりしてはいけません。あなたは何が何でもある状態に到達しようとしてはいけません。実は全てが自然な成り行きです。他人の欠点を指摘する時は、なるべくそのようにした方がいいと言いましたが、それは一つの道理を言っただけです。あなたはそうした方が効果的です。あなたが本当に全てを放棄して無心になり、真にそれほど純粋な善にまで達するのはやはり並大抵のことではありません。というのは、あなたの思想は絶えず浄化されていく過程にあるため、まだ浄化されていない思想があなたの話に全て出ているはずで、様々な信息が全て出てきています。少しも欠けていません。ですから、あなたの話に対して、人によっては認識も違ってきます。必ずそうです。しかし、絶えず修煉していくにつれ、ずっとそのように自分を律していけば、物事はますますよく処理されていくと私は思います。あなたの善なる心が多ければ、相対的に言えばあなたは常人を越えることになります。常人を越えれば、あなたの話がそれほど純粋でなくても作用して、人を感化することもできます。

弟子：ある敬虔なクリスチャンから、キリストの天国には白人しかいないと聞きました。彼女が世を去った後、その元神はどの次元、或いはどの天国に行くのでしょうか？

師：その宗教での彼女の修煉は無駄に等しいのです。彼女は常人と同じです。彼女の善なる心は福報しか得られません。やはり常人の次元で輪廻します。そうなるしかありません。

弟子：「玄法至虚」の虚界は、真・善・忍の中にありますか？

師：全ては宇宙の法理の中にあります。過去、道家は「虚」を比較的多く言っていました。第一に、実はそれはある境地の状態の体現です。天地を開闢する時、「太虚」と言います。この天地の開闢は、異なる神の目には同じ次元のものとしては映りません。天体における異なる世界、異なる宇宙の更新の過程は全て天地開闢と言います。道家では最高の境地と見做なされています。第二に、修煉状態において、この虚は即ちあなたの人間の一面を放棄することです。人は人を最も実在するものとみていますが、主元神が一切を放棄すれば、即ち人が虚になるのです。副元神を修めることは「識神死して、元神生ず」と言われました。過去には副元神を元神と呼んでいました。

弟子：私たちがよく修めた部分は分離されますが、どういう状況においてこちらの部分を失うのでしょうか？

師：あなた達がよく修めた部分は、一旦基準を満たすとすぐ向こうに行ってしまいます。その速度は非常に速く、あなた達の生命のミクロな部分はロケットより速く、凄い勢いで猛進します。しかし往々にして、一旦人のところ、即ち三界内の物質で構成された身体の部分に来ると、すぐブレーキがかかって遅くなります。一歩進むだけでも、困難を極めます。人が執着を放棄するのはあまりにも困難だからです。そのため、私たちは分離する時、しばしばある感覚を覚えます。どういう感覚でしょうか？　例えば、ある人が法をよく暗記していましたが、突然忘れてしまいました。或いは、ある人がよく修めて状態もよいと感じ、よく見えていましたが、突然まただめになりました。「私は落ちたのか？」と言う人がいます。違います。これはその瞬間、基準を満たす部分が分離されたからです。残った部分はまだよく修めていないので、だめだと感じたわけです。大法はこのように修めるのです。

弟子：どうして先生の国外での説法の録音や録画のテープを入手するのはそんなに難しいのでしょうか？

師：どうしてそんなに執着するのでしょうか？　非常に執着しています。『轉法輪』には何でもあります。実は私が言ったこれらのことは全て『轉法輪』の中にあり、私は異なる地区の学習者の状態に対して具体的に話したにすぎません。こういうことに執着してはいけません。その心を捨てて着実に修煉しなさい。主に『轉法輪』を読み、補助的に他のものを読みます。『精進要旨』に関しては、輔導員、站長は時々刻々覚えておくべきなので、常に読まなければなりません。

弟子：私たちが修煉によって得た功は、身体の一つ一つの細胞の中に蓄えられ、きわめて微視的状態で存在している本源物質の微粒子にまで入っています。では、この功の物質は本源物質の粒子よりも小さいのでしょうか？

師：功がどの程度までミクロ的になるかは、あなた達の修煉の次元と相補って起こる一体関係にあります。あなたが到達した境地は即ち、あなたの果位です。あなたは自分の果位にあるものしか得られません。そして、あなたより高く修めている人の功と果位は当然高く、その人の功はあなたの功よりミクロ的で強大です。それは間違いのないことです。全てはあなたの果位に由来し、全てはあなたの威徳であり、全てはあなたの一生の修煉の証となるのです。

弟子：宇宙が先か、それとも佛法が先ですか？

師：佛法は佛が宇宙大法から正しく悟った法なので、佛法と言います。宇宙がなければどこから佛と佛法が生じるでしょうか？　宇宙の最終的な構成をあなた達は永遠に知るよしもありません。あなた達はどれほど高く修めたとしても、知ることができません。ですから、その知識を渇望する心を捨てなさい。

弟子：人が圓満成就する直前、その功と心性基準の八割までもぎ取られてその人自身の小宇宙を充実させますが、その時、その人の心性はどう量るのでしょうか。元々の二割しかないのでしょうか？

師：圓満成就の全ては心性の証となります。圓満成就する前の功柱は本当の果位ではなく、主に心性の高さを表します。圓満成就した後、その人の持っている心性の高さが即ちその人の果位となります。菩薩のレベルなら菩薩となり、羅漢のレベルなら羅漢となり、佛のレベルなら佛となり、こういう基準です。自分が圓満成就した一切は自分の威徳を反映し、果位はその一切の証です。殆ど全ての修

煉方法はこのように修めます。この宇宙の生命ならば、このことを心配する必要はありません。誰でもこのように修めなければなりません。天に上がって何もないのでは、どうなるというのですか？

弟子：ある人が、先生は『轉法輪』を一通り読み終えるのに一日半では遅すぎるとおっしゃったと言いました。

師：私はそんなことを言っていません！　速すぎると思います。（拍手）　私は皆さんに時間を無駄にせず本を読むように話しましたが、その人はすぐ極端に走りました。読んで、読んで、読んで、読んで、一生懸命に読んでそれぞれの字さえ分からないようでは、あなたは何を読んでいるのでしょうか？　あなたは法を学んでいるのではありませんか？　法を学び、法を学び、どのように学んでいますか？　あなたは自分が何を見ているのか分からないようでは、どうやって修めますか！　あなたは今何を見ているのか分からなければなりません！　あなたはどういう字を読んでいるのか、表面的にどういう意味か分からなければなりません！　そのようなやり方ではどうして法を学ぶと言えますか？　それではまだ読む必要があるのでしょうか？　本を手に取り、パラパラとめくって終わってしまえばそれでいいのでしょうか。こういう道理ではありませんか？

弟子：四式までの功法を煉るにあたって、それぞれが終了する時、結印を保つべきか、或いは結印を解き、再び結印するのでしょうか？

師：功法と功法の間の繋ぎは結印を一回します。解かずに次の功法に移ればいいでしょう。

弟子：「道法」という経文を理解するのは難しいのです。

師：そのとおりです。というのも、私はあなた達に少しずつそれを認識してもらうためであり、しかも、直接あなたのまだよく修めていない部分のために書いたのではないのです。しかし、どの高さまで認識しても間違っていません。ただ認識したレベルが違うだけです。認識できるところまででいいのです。私が徹底的にあなたに教えられれば、このようには書きません。ゆっくり学んでゆっくり認識さえすればいいのです。あなた達があまり理解できないと感じているだけでなく、誰にとっても、世界のどこの人にとってもあまり理解できないと感じられるのです。

弟子：悟りを開く前と開いた後では、分かった法理はどういう区別がありますか？

師：真・善・忍においては区別がありません。しかし、悟りを開く前は概括的なものですが、悟りを開いた後、多くの法理の細部、及びあなたの次元とそれ以下の各次元の理が突然分かってきます。あなた達に見せているこの法は概括的に書いたものです。真の法理をみるのは、あなた達が圓満成就した後です。

弟子：保護されて生き延びた神は、皆宇宙に法があることを知っていますか？過去において、どうして彼らは知らなかったのでしょうか？

師：宇宙の法の真実の体現は宇宙の衆生に知られてはいけません。過去の宇宙において法がありましたが､過去の宇宙の如何なる次元の衆生も知りませんでした。私があなた達に伝えたこの法は人間の言葉で言ったもので、法の真実の体現の一面の具体的な現れとはやはり違います。将来あなた達が圓満成就しても法の存在形式をみることはできません。この宇宙における多くの謎は宇宙の生命に知られてはいけませんが、この厖大な宇宙における全ての景象はあなたが楽しく生きていくには十分です。あなたが目を開けて常人社会の形象を見た時でさえ驚き感嘆するのですから、ましてあれほど高い次元で衆生、万物、宇宙の構造の壮観な景象を見た時、如何なる形容もできません。しかし、一部のもの、宇宙の根本的なものは衆生に知られてはならず、それほどの高い威徳を持っていません。それはあなた達の修煉の次元によって限定されているのです。

弟子：故意に失うことをしてはならず、故意に得ることもしてはならず、全ては自然に任せるのがより高い法理の基準です。この理解は正しいでしょうか？

師：原則上正しいのですが、あなた達がそこまでできたのは心性がその状態に達していたからです。しかし、修煉者に必要なのは、自己を律する常人のやり方より高いのです。修煉においては必ず何らかの方法でしようとする人がいます。私がこのように修めなさいと言っているにも関わらず、彼は勝手な考えでします。飲まず食わずに辟穀をします。或いは一日中だらしなく、男は男らしくなく、女は女らしくなく、外見を全然気にせず、あまりにも無頓着です。修煉というと、すぐ過去の修煉形式を思い出し、修煉のことを考えると、すぐ張三豊を思い出して、外見にあまりにも無頓着になります。そうではありません。私はあなた達に

最大限に常人社会の形式に符合するように言っているのです。常人社会においてあなた達の誰もが外見に無頓着であれば、常人社会という次元の理を破壊することにもなります。私はあなた達の前でそうしたことがありません。あなた達が知っているように、毎回説法の時、私はいつもきちんとした服を着ています。私はあなた達に示しているのです。皆さんもこの方面について注意してください。

弟子：師父の無量な智慧によって、宇宙の成、住、壊の法則はより完備されたものになるのでしょうか？

師：この問題提起も非常に高いものです。私たちの法輪の特性は自動的に基準を満たしていない全てのものを修復することができます。言い換えれば、それは絶えず一切のものを圓容していきます。法を正す目的は、まさにそれをより完璧で美しいものにするためです。

弟子：坐禅した後、すぐ寝てもいいでしょうか？

師：影響ありません。寝たければ寝ればいいのです。夜中に起きて坐禅し、煉功が終了した後すぐ横になって寝れば、非常によく眠れます。

弟子：表面的に法輪大法を真に修煉しているように見える人が、突然車の事故で死んだとします。その場合その人を魔と見做してもいいでしょうか？

師：私はその件については話しません。直接あなたのこの問題に答えません。生老病死は人類社会において確かにこのように存在しています。真に修煉している人でしょうか？　圓満成就に達することができるでしょうか？　このことは現在のこの時期において表面だけを見ても分かりません。先ほど私は一言言いました。重大な問題においては絶えず人心を見ます。ある人が煉功中死亡しました。あなたはどうしますか？　その人は圓満成就したかもしれず、魔かもしれません。それは孤立したものではありません。学習者の心を見るために利用します。肝心な時にまだあなたが大丈夫かどうかを見ます。ある人がこのことのために犠牲になりました。圓満成就の境地に達したので学習者のためにこうした条件を作り出したのです。このような場合がありますが、原則的に私は同意しません。このように破壊しに来る場合もあります。まさにこのように邪魔をします。肝心な時に起こってきます。しかし、私たちは人心を見ることにそれを利用し、肝心な時にそれを利用して人心を見ます。あなた達が果たして修煉できるかどうかを見ます。

修煉は非常に厳粛なことです。

弟子：佛、道、神の中の神という概念は何でしょうか？

師：皆さんが知っているように、佛の天竜八部の護法においては多くの神がいます。これは神であり、佛教において認識し得るものです。この宇宙にはこればかりではありません。異なる境界において異なる天神が存在します。彼らは直接宇宙の衆生を管理します。異なる次元全てにいます。佛は特殊な神です。修めているのは慈悲で、善を修めることによって神になったのです。これが佛です。道が修めているのは真で、真・善・忍の真を基点にします。ですから、修め終えても衆生を済度することを言いません。しかし、彼は全てが真のみと言っており、これが即ち道で真理の大道です。実際彼らも神です。従って、その神の中には、先ほど言った宇宙の衆生の一切のことを管理する類いの神もいれば、佛や道のような神もいます。また他の多くの異なる各種各様の高級生命もいます。私は概括的に佛、道、神のことを話しました。

弟子：もし修煉の時間が終了しても、一部の人がまだ功を開き悟りを開いていなければ、彼らが修煉によって形成した部分の八割がもぎ取られるのでしょうか？

師：圓満成就していなければ、こういう問題はありません。圓満成就まで修煉していないのに、彼自身の世界を圓満させることなどは、語るに落ちるというものです。こういう問題はもうありません。圓満成就していなければ、次のような幾つかの方法があります。一つは、本当に主な心が全て捨て去られていれば、あなたは先天以下の次元に行くことができます。もう一つは、まだ修煉を続けたければ、彼の先天の一切を封じ込めて転生し、来世続けて修煉します。三つ目は、これ以上修煉したくない場合です。その時、彼が修煉して得たものを全て福徳に転化します。来世の福報としての金銭や財産、名利や官職など、多分そういうものになるでしょう。

弟子：分子は原子から構成されたものであり、原子は分子の中にあります。それでは、原子全体の構造が分子より大きいことをどう理解すればいいでしょうか？

師：分子は一つの独立した粒子ではなく群体であり、現在の科学の言葉で言えば群体で存在します。即ち、それはその境界において虚空の一切に分布しています。ここでの一切も実は境界線があり、ある範囲を持っています。即ち原子の存在範

囲の体積は、分子の存在範囲よりずっと大きいのです。原子が分子の中にあるというのは、現在の科学技術手段が認識しているだけのものであり、実際はこのような概念ではありません。

弟子：真・善・忍の佛法はこの大宇宙の法ですが、他の大宇宙の法もそうでしょうか？

師：そうです。実はこの宇宙がどれほど大きいか、あなたの概念がどれほど大きいか、あなたの言っている宇宙がどれほど大きい範囲か、あなたはいくら考えても永遠に知ることができません。あなたはそれほど大きい容量を持っていないので、ただ口にしただけでしょう。全ては真・善・忍から成り立っています。

弟子：真・善・忍は如何に他の宇宙の理を生み出すのでしょうか？

師：他の宇宙もこの理です。同じ境界においては、如何なる遠い宇宙も全ての宇宙と同じく、この次元の天体の真・善・忍という法理に符合し、同一次元の理に符合します。あなたが想像した宇宙がどれほど大きかろうと、その境界における一粒の粒子にすぎません。ですから、この粒子がその境界で存在するには、その境界の基準に符合しなければなりません。その基準もまた、その次元での法の具体的な現れになります。

弟子：無辺の威徳は全て苦しみを嘗めることによって得られたものか、それとも先天から備わっているのでしょうか？

師：先天において、その境界で生まれたものは、即ちその程度の高さの境界にいます。彼はその高さを持つ次元の生命です。それは人間の場合と同じです。あなたは人間の中で生まれたのですから、あなたの子供も大きくなれば人間になります。絶対に他の動物にはなりません。宇宙には、修煉した非常に素晴らしい多くの大覚者がいます。自らの修煉によって上がって来た者もいます。

弟子：かつて無償で多くの人に本とテープをあげましたが、修煉をやめた人がいました。それらの本とテープを返却してもらったほうがいいでしょうか？

師：彼が本当に修煉をやめたなら、返してもらってもそれはそれで結構です。返してもらい難い場合、将来誰か縁のある人が彼の家に行き、本を見かけて持って

行くかもしれません。返してもらえれば、返してもらいなさい。自分で適宜に判断しなさい。

弟子：「時間との対話」の「人類を破壊する更にミクロ的な物質」とは、どう理解すればいいでしょうか？

師：あなたはどう理解してもいいです。どう理解しても外れることはありません。私はこのように皆さんに言いました。この尨大な天体は、あるところまでいくと有形の生命が存在しなくなります。全ては無形の生命として存在します。彼は天体全体に充満しています。私は彼を物質と呼びますが、彼は神であり、どんな形のものにも凝集できます。しかし、彼は形になるのを好みません。ただこのように存在します。如何なる物質も正と反の両面があり、もし宇宙がだめになったら、全てがだめになり、正なるものもだめになり、負なるものは尚更だめになります。

弟子：「修心断欲、明慧不惑乃自負」。ここでの自負は自分に責任を持つという意味でしょうか？

師：そうですよ。修煉は自分に頼るものではありませんか？　そういう意味です。あなたは自ら修めなければなりません。「修心断欲」とは、あなたの心性を修め、世間での求める心、これを求めたり、あれを求めたり、全てを得ようとする欲望を断つのです。これはあなたが修めなければ、誰が修めてくれるというのですか？私が修めても、あなたの修煉にはなりません。そうではありませんか？　「明慧不惑」とは、このようなものを修煉によって取り除けば、あなたは法において更なる高い理をみることができ、更なる高い次元へ上がることができ、最後は圓満成就の状態に達します。低い次元のものに動かされることがなくなり、常人の心に動かされることもなくなります。これらは全てあなたがすることではありませんか？　まさにこの意味です。

弟子：三界内の神は、原子という物質から構成されているのでしょうか？

師：どの境地にいても、その境地の基準に符合しなければなりません。しかし、三界内の神の中には、彼らの所在する境地の次元を越えているものがいます。私は彼の身体が原子からできていると言いますが、その原子は決して私たちが現在見ている原子外殻の原子ではないのです。この宇宙は非常に奥妙です。

弟子：取り調べ中に証拠を採ろうとする時、相手が本当のことを言わないとします。態度を厳しくしたら、私たちの修煉している真・善・忍と矛盾しませんか？

師：相手が本当のことを言わなければ、言わせなければなりません。それがあなたの仕事です。厳しく話す必要はありますが、怒ってはいけません。罵ってもいけません。まして殴っては尚更いけません。案件の処理において、私たちと外国の間に差があります。国外では証拠を重んじます。私たちは時々証拠がなくても、自白させる時もあります。とにかくよく対処してください。つまり、煉功者の基準をもって正しく判断し、対処してください。

弟子：どうして簡単に法を得た人は、人生であまり成功していない人ばかりなのでしょうか？

師：あなたにどうして分かるのですか？　法を得た弟子の中には、大実業家も多くおり、社会階層の非常に高い人もたくさんいます。大法弟子の中には若くして、教養のある人がやはり絶対多数を占めています。社会的地位の高い高級幹部や官僚も非常に多いのです。今ここに座っている人の中にも実業家が多くおり、しかも修煉も非常によくできています。医者も多く、弁護士もいます。こちらでは金融界の人、政府の高官、経済界の人も、法を得ている人は少なくありません。しかし、一つ皆さんに言っておきます。修煉にあたっては全ての人に対して一視同仁です。有名人だからといって、大法が待ってあげることは絶対にあり得ません。

弟子：先生が着ておられる袈裟には、どんな意義、作用と由来がありますか？

師：皆さんに話しておきますが、釈迦牟尼在世の時、彼の弟子たちは皆このような服を着ていました。漢地の和尚は気候の影響で中国の民族衣装、庶民の服を着ていました。実は現在の和尚は、唐と宋の時代の庶民の服を着ています。違うのは色だけです。昔の人は派手な色を好んで着ていましたが、後でそれは一種の執着ではないかということで、和尚は灰色でも土色でもない、あのような色の服を着ることになりました。しかし、真の天上の佛門弟子や佛も私が着ているような服を着ています。ただその素材がこれとは違います。しかも裸足で、片方の肩を出しています。私たちは佛を修めているので、当然佛家の衣服を好んで着ます。そういうわけです。道を修めている人にこのような服を着せようとしても、彼は絶対にいやがるでしょう。そうではありませんか？

弟子：母は 84 歳で一人暮らしをしています。殆ど外出しません。毎日食事以外、時間さえあれば煉功したり大法を勉強したりしていますので、なかなか心性を高める機会がありません。

師：お年寄りにはお年寄りなりの修煉の状態があります。彼女には難がないのですが、ただ座っているだけでも、一昔前にむっとした過去の出来事を思い出します。必ず思い出させて、心が動じるかどうか、怒りを感じるかどうか試しています。思い出すだけで、かんかんになる人もいます。つまり、何一つ抜けてはいけません。必ず何らかの形をもって修煉させます。若い学習者、年配の学習者を含め、最近このようなことにぶつかる学習者もいますが、つまり、怒りを感じたことを思い出させて、怒るかどうかを見ます。十年前や八年前の昔の出来事を全て思い出させて、どのように対処するか試しています。

弟子：六日前、師父が私たちと一緒に大法を勉強し、質問にお答えになっている夢を見ましたが、師父は昨日の午前中、少人数に対して説法された際と同じ服装をしておられました。

師：つまり、あなたは事前に見たのです。実は、このようなことを私はずっと皆さんに抑えています。あなた達にこのようなことに余計な精力を使わせず、関心を持たせないようにさせています。あまり気にせず、修煉に打ち込んでほしいのです。そうでなければ、皆さんはこのような質問を毎日出してしまうでしょう。あれこれどうこうといった質問ばかりします。宇宙の奥義は数え切れないほど多く、とても多いのです。

弟子：人間の堅固な意志と忍耐力は生来のものですか？

師：これは生来のものではありません。人間で言えば、人間の表面の身体から言うと、もし常人社会で挫折などを多く経験したら、次第に気にしなくなるかもしれません。或いは、体験の積み重ねによって強くなり、物事にこだわらなくなります。修煉も人を強くすることができます。次元が高まれば忍耐力も強くなります。

弟子：修煉する過程で、あらゆる良くないものを取り除くことができますか？

師：そうしなければなりません。「先生、常人社会にいる私たちはこんなに良く

ないのですが、佛の境地まで修めたら、本当に常人でいた時の全てを忘れるのでしょうか？」と考える学習者がいます。これはあなたが常人の状態から佛の状態を想像しているのです。人間の思想、あなたの思想の構造、思惟方式を含めて、全てが変わらなければいけません。常人という次元の情による制約、及び常人という境地の各種の物質による人間への制約がなくなると、あなたは既にこの環境から抜け出し、この状態もなくなります。圓満成就した後、人間の表面形式のわずかなものはただ一種の記憶にすぎず、その時、あなたの思想は既に佛の思想、神の思想、道の思想境地まで昇華しており、それがあなたの最も良い部分です。人間の最も表面にあるもの、ひいては、この記憶さえあなたは触れたくなくなり、思い出したくなくなります。

弟子：新しい宇宙が構成された後、各次元にある魔はまだ存在しますか？

師：これだけは言っておきます。正のみが存在し、負がなければ、あらゆる生命は生きていくことがつまらないと感じます。何をしても容易くできて、ほしいものは何でも手に入り、何をしても困難がなければ、あなたは全てのものを大事にしなくなります。いろいろな難関を乗り越えてやっと成就した時の幸福感もなく、勝利の後の喜びもなければ、あなたは何に対しても気にせず、大事にしなくなり、人間としての生きがいも喪失します。人間は常人社会で闘いながら生きがいを感じ、百年後に思い返しても味わい深く感じます。これが人間です。しかし、異なる次元でも負の要素が存在します。これは確実なことですが、修煉してできたものではなく、法が按排したものです。

弟子：入静して見たくないものが出てきた時に、どうすればいいでしょうか？

師：見えたら見えたでいいのです。見たくなくても見えてしまったわけですから、放っておいてください。これらのものはあなたに害を加えることもできなければ、あなたを動じさせることもできません。自然に任せて、放っておけばいいのです。特に常人の次元からスタートする時、もし、天目で何か見えるとしたら、それは間違いなく低次元、また非常に良くないもので、怖く感じます。しかし、本を多く読んだり法をよく学んだりして、速やかに修煉すると、この次元をすぐ突破します。今度はこのようなものではなく、良いものが見えてきます。

弟子：家族が他の気功をすると、私は煉功場でとても気分が悪くなります。時たま見えた光景は予測作用があるのでしょうか？

師：見えたら見えたで、気にしないでください。これから起きることが見えても、気にとめないほうがいいと思います。心性を守って修煉してください。他の人があなたの修煉を邪魔したり、或いは家族が他の気功を練習したりするなどのことは、一般的に私たちの妨げにはならないと思います。もし邪魔されたと思ったら、これはあなたを試し、あなたの気持ちがどう動くかをみているのかもしれません。私たちは正法を修煉しているので、どんなものもあなたを妨げることはできません。これは心性の問題で、自分の心が安定していなければ、異常な現象が現れてきます。

弟子：私は法輪功を修煉してから既に何カ月か経ちましたが、とても良いと思います。しかし、私はある宗教に帰依したので、今進退両難の立場に置かれていますが、ご指示を仰ぎたいと思います。

師：修煉は自分のことなので、自分の進みたい道に進めばいいのです。どうしても宗教の中で修煉したければ、そうすればいいのです。大法の中で修煉したいと思えば、大法に従って修煉すればいいのです。この一歩は自分で歩き出さなければなりません。私もあなたの二進も三進もいかない状態が良く分かっていますが、どのようにこの一歩を踏み出すかを見てみたいのです。何を学びたいか自分で決めることです。しかし、私は多くの道理もはっきり説きました。今三界には見守ってくれる正神がなく、人を済度している正神がいません。これだけは皆さんに言っておきます。

弟子：時間が足りないと思い、睡眠時間を惜しんで時間を作りますが、これは執着と言うべきでしょうか？

師：執着とは言えません。時間が非常に厳しく、昼間忙しいので、夜時間を作って煉功するのはとても良いことだと思います。煉功に時間を使ったからといって、身体に負担をかけるとか、寝不足になるなどは絶対ありません。絶対あり得ません。かえって、煉功後、深く眠ることができるので元気になります。絶対そうだと思います。

弟子：キリスト教、カトリック教を信奉する人はただ一人の神、つまりイエス・キリストしかいないと思っていますが、どうすれば神は一人だけではないことを信じてもらえるでしょうか？

師：それは本人次第です。道理は既に教えました。実は旧約聖書と新約聖書に既に述べられていますが、神はイエス・キリストだけではなく、少なくともイエス・キリストの前にエホバがいます。新約聖書と旧約聖書の中で他の神についても言及しています。古代ギリシャ時代にも多くの神が人間社会で法を伝えていました。これは彼ら自身がどのようにこの問題を認識するかです。実は、佛教でも佛が釈迦牟尼一人だけではないと教えています。もちろん、釈迦牟尼は阿弥陀佛、原始六佛に言及し、如来がガンジス川の砂の数ほど多くおり、無数の大菩薩がいると言ったこともあります。しかし一部の僧侶は、佛は釈迦牟尼しかいないと言いきっています。彼らの思想は、今どうしてそれほど偏狭になったのでしょうか？　釈迦牟尼が唯一の佛だと思っています。大法を彼らに見せて、大法の存在を知らせていいのです。学びたいかどうかは彼ら次第です。どうしても自分の認識を固持しようとすれば、本人に任せればいいのです。私たちは善を勧めるだけで、決して人を無理に引っ張って来てはいけません。これだけは皆さんよく覚えておいてください。

弟子：人の功には本人の姿かたちがありますが、どうして人が拝むことによって作ってしまった偽の佛は、人の功を取ることができるのでしょうか？

師：取ることができるのは常人の気であり、人の功を取ることはできません。この意味です。それはたいしたエネルギーを取ることができません。それなのに、どうして人のものを取るのでしょうか？　常人が拝んでできたものなので、思想境地は常人と同じです。人はどうして物を盗もうとするのでしょうか？　この考えがあるからです。

弟子：修煉して圓満成就に達して他の世界に行く弟子は、お腹にある法輪とともに行くことができますか？

師：修煉に専念しましょう。あなた自身の状況は自分でさえ分からないので、ひたすら精進すればいいのです。如何に圓満成就できるか、これこそあなたが考えるべきことです。できるだけ速く元に戻る、これがあなたにとって何より大事なことです。他のことについては何も考えないでください。師としての私は絶対最高のものを授けます。(拍手)　新しい宇宙も、将来の全ても誰のために切り開くのでしょうか？　全ての衆生のためではないでしょうか？　そうでしょう？　親がいつも最も良いものを子供にあげたい、特に将来が更に素晴らしいものである

ようにと願う、その気持ちと同じです。（拍手）

弟子：圓満成就は一瞬の間に完成しますが、どうすれば師父から指令があるということが分かるのでしょうか？

師：圓満成就に近づくと、あなたと接触を始めます。多くのことは直接あなたに教えます。一部の人が圓満成就したと言っていますが、それとは全然違います。このように言う人で、本当に圓満成就した人は一人もいません。

弟子：西洋の人に法を広める時、宗教について聞かれたらどうすればいいでしょうか？

師：本を読ませます。ただ本を読ませるだけです。宗教のことに関して私は本の中に明確に書いています。聞かれたら本に従って説明すればいいのです。これで大丈夫です。

弟子：坐禅する時、非常に痛いのですが、これはとても良いことなのか、それとも私の業力が多すぎて、これは相応の報いなのでしょうか？

師：違います。坐禅して痛くない人はいません。昔、体操やダンスをした人、或いは生まれつき坐禅できる人は、すぐ足を組むことができます。しかし、それはその時修煉していないからです。修煉を始めると、日にちがあまり経たないうちに痛み始めます。足が組めるからといって、煉功して業を滅させないことは絶対あり得ません。修煉はあなたを向上させなければいけません。

弟子：ベッドで横になり、手を下腹部に置くと、自分が波のように外へ広がっていくと感じます。これは邪法を修めてしまうのではないかと心配していますが？

師：これは身体のミクロから表面への変化をあなたが感じているからです。先ほども言ったように、ミクロからあなたを変え始め、最終的に表面まで至ります。従って、非常に敏感な人はそれを感じられますが、あなたが感じたのはわずかです。とても多くのことをあなたはまだ感じられません。また非常に苦しい感覚もあります。

弟子：青少年時代に、いろいろな難や挫折を経験しましたが、法を得てからこれ

らの難は修煉の助けになるでしょうか？

師：助けになる場合もあります。誰しも法を得るには苦労します。もしこの人が法を得ると決まったら、彼の一生ないし何世かにこのために苦を嘗めていたのです。ですから、今日簡単に法を得たと思わないでください。生々世々で法を得るために苦労してきた人もいます。法を得るべき時期に法とすれ違ったら、それこそ残念なことです！　法を得るためにこの世に来たのに…、残念ではありませんか？

弟子：法を得たばかりの時期、夢の中で危険に晒されると、いつも師父の名を忘れずに呼んでいました。しかし、最近よくそれを忘れて、自ら彼らと闘ったりしていますが、これはどういうことでしょうか？

師：これはとても珍しいことです。めったにないのですが、ごく稀にあります。しばらく経つとよくなります。気にしなければ、時間が経つにつれてよくなるので、どうということはありません。何かに遭ったらすぐ師父を呼ぶのもまた別の執着ではないでしょうか？　しかも夢の中の出来事についても、自分の原因を探さなければいけません。これはある状態の反映です。昔の道家の修煉方法によくあることです。特に内外兼修、つまり内面を修煉すると同時に、武術もする功法によくこのようなことがあります。

弟子：鬱病や精神障害の人でも、もし、真に修煉すれば圓満成就できるでしょうか？

師：真に修煉すればできます。しかし、このような場合、公の場所で煉功しないでください。あなたのためでもありますし、大法のためでもあります。もし、問題があれば、大法に損失をもたらすばかりでなく、あなたも過ちを犯すことになります。ですから、自宅で煉功したほうがいいのです。修煉さえすれば、どこでしても見守ってあげます。ただし、これは修煉できる人に限ります。つまりはっきりした意識があり、関門を乗り越えられる人です。

弟子：前半生を振り返ると、悔恨と自責を感じますが、法輪大法の弟子として、この問題にどう対処すればいいでしょうか？

師：何も考えないでください。過ぎたことは過ぎたことです。私はあなたの修煉

の心だけを見ます。他のことは師がしてあげます。もう終わったことなのに、いつまでも気にするのは、また一つの障碍と執着になります。もう過去は気にしないでください。自分を改め、換骨脱胎すれば、あなたも新しい人になります。このようにしてください。(拍手)

弟子：私は『轉法輪』を読む時、顔はただの殻で、顔の内側が本を読んでいると感じる時があります。これはどういうことでしょうか？

師：それがあなたの元神と身体のミクロの部分です。そちらは比較的強いのです。これもいいことです。

弟子：心性と境地、及び両者の関係をどう理解すればいいでしょうか？

師：修煉して達した次元は、あなたの心性の基準になりますが、あなたの境地でもあります。この境地から発したあらゆる思想、考えはこの次元の心性の基準と符合しています。しかし、常人社会で修煉する場合はまた違います。私たちはミクロから表面へと変化します。表面上、人間としてのこの部分は、まだ人間の姿かたちである限り、まだ常人の心を持っています。最後に圓満成就に達した時、これらの全ては変化します。しかし修煉する時、常人を超える心性を保ち、自分を厳しく律しなければなりません。

弟子：もし毎朝2時間半抱輪をし、夜坐禅を2時間半もすれば、煉功時間は多すぎるでしょうか？

師：時間がある時に煉功を多くすることに私は反対しません。煉功するのはいいことだからです。しかし、本を読む時間が煉功に取られたら、これは間違いだと思います。本を読み、法を学ぶことは一番重要だからです。これは本質からあなたを変える保証であり、昇華できる根本の原因です。煉功は圓満成就の補助的手段です。煉功を第一位におき、法を学ぶことを二次的なものにしてはいけません。絶対だめです。あなたはまだそのような境地には達していません。どう煉功しますか？　自動的とはいえ、それが自動的に上へ伸びようとしても伸びません。心性の基準がそこに達し、法を学んで本を読み、法理を理解できれば、功は瞬時に上がります。従って、特に煉功時間を増やすようにとは要求していません。こういう意味です。しかし、煉功は不可欠なことです。

弟子：一部の功法では、副元神が煉功に行き、殺された後にまた転生したと師父はおっしゃいましたが、その身体は主元神が修煉しているのか、それとも副元神が修煉しているのでしょうか？

師：私がいつも言っていることを皆さんに教えましょう。人類のいる次元はあなたが一目で見通せますが、どのぐらいの空間があるかは、なかなか調べられません。それは他のもう一つの時空の場で全てを完成しているのです。他の時空の場に、更に他の時空の場があるので、その中で全てを成し遂げたのです。当然、皆副元神です！

弟子：私たち翻訳チームは経文を英語に訳しました。西洋の学習者に見せてもよろしいですか？

師：翻訳した如何なるものも、表に出したり、公開したり、或いは本にして学習者に読ませる場合、研究会が目を通してから決めなければなりません。大法全体に影響を及ぼす可能性のあることが多く、とても肝心な問題なので、必ず研究会に読んでもらってからにしましょう。特に説法の録音に関して、多くの問題は私が説明した後、誰に対しても同じ意味があるわけではありません。発表するなら、必ず私は改めて内容を整理し、皆が読める本のようなものにして、それに従い学習者が修煉し向上できるものにしなければなりません。ですから、誰であっても勝手にしてはいけません。これはもう非常に明確に規定しています。何かをする際、皆さんは大法にプラスになるようにと思って行なっていますが、しかし、それが大法全体に関係していることも、考慮に入れなければなりません。従って、この問題において私たちは厳粛に対応すべきです。

弟子：師父は「法の中に溶け込む」の中で、議論に多くの時間を費やす必要はないと言及されています。それを勉強会に参加しなくてもいいと理解している人もいますが？

師：グループで本を読んで法を学ぶことと、個人ですることは、両方とも必要なことです。極端から反対側の極端に走らないようにしてください。

弟子：異なる経文を暗記する時、その難しさに差があると感じていますが、これは錯覚ですか？

師：私が書いたものの中に確かに分かりにくいものがあります。これは確かなことです。どうしてこのように書くかも、それなりに目的があります。理解できる範囲まで理解すればいいのです。認識の程度に差があるだけで、どう理解してもずれることはありません。

弟子：経文を暗記するために、私はそれを書く習慣がありますが、この手書きの経文をどう扱えばいいでしょうか？

師：このようなことをする時、修煉者の心構え、即ち、師と法を敬う気持ちを持たなければなりません。こういう場合は燃やしましょう。常人の火が神に届くことは永遠にないので、不要になったら燃やせばいいのです。今は特殊な歴史的時期なので、このようにしてください。しかし、大法の本は絶対燃やしてはいけません。

弟子：古い弟子が師父にとても会いたいと思っているのですが、これは執着でしょうか？　一旦、師父に会えたら思わず涙が出て、何も話せなくなりました。これもまた執着でしょうか？

師：私に会いたいという気持ちから、執着心を生み出してはいけません。多分皆さんは大法を修煉しており、師父から伝えられた法に済度されたので、この考えから私に会いたくなったのだと思います。私に会って、何も話せなくなったのは、おそらくあなたの変化、あなた自身に起きた変化によるものだと思います。表面には何も見えないのですが、修煉して既に基準に達した部分、或いはあなたの元神、迷いの中にない部分は、いろいろ見えているのです。私に会うと、彼らもすぐしっかりしてきます。彼らが少ししっかりしてきたら、あなたの人間の部分は直ちに弱まってきます。表面上、あなたが何故泣いているか知りませんが、実は別の部分はあなたのために私が与えてあげた全てを見ています。それは如何なる言葉でも、如何なる方法でも恩返しできないのです。（拍手）　一種の言い表せない感激の状態です。

弟子：結跏趺坐は非常に苦痛ですが、まだ我慢できます。しかし、身体のあらゆるところが絶えず激しく痙攣し、静功を煉る際は入静できないのですが？

師：結跏趺坐をする時、痛みを感じる段階は必ずあります。特に今まで結跏趺坐をしたことのない人は、体の表面にある物質の構造が不慣れで、業が滅されてい

る時、非常に痛みを感じるはずです。足を三十分組める人は、三十分が過ぎると必ず非常に痛く感じます。これは間違いのないことです。ただ痛むだけではなく心も乱れます。ですから、昔修煉をする僧侶は、坐禅だけをしていると思われていますが、心性も高めていたのです。ただ私たちのように、直接に心性を高めているのではありません。彼らの修煉の向上はずっと遅いのです。心が乱れている時は業力があなたに足を崩させますが、意志の強い人はどうしても崩さないので、心性が高まります。これも難の中で向上するケースの一つです。時には激痛、吐き気、嘔吐などがあり、とても激しいのです。

弟子：既に最終段階に入ったので、時間を大事にして法の勉強に力を入れるべきだと思う学習者がいます。

師：最終段階と言ったことはありません。時間を惜しんで法を学ぶために仕事をやめて家にいれば、私に言わせるとそれは法を破壊することです。こういうことを言いふらしている人、こうした人は法に対しても自分に対しても無責任です。仕事をやめ、全ての仕事を投げ出すようにと、誰があなたにそう教えたのですか？　あなたは法を破壊しているのではありませんか？　私は既に言いましたが、人も法に圓容しています。もちろん、「人はどうやって法に圓容するのか？」と思う人がいます。皆さん考えてみてください。法はあなたを済度することができます。これは間違いありません。それでは、人はどのように法に圓容しますか？　人は常人社会という次元におり、みんな過ちを犯し、常人社会で常人のように振る舞っていれば、法輪功を煉る人でもそんなことをするのかと周りの人から言われます。もし、私たちが皆自分の行動を正して、修煉者の基準を自分に要求し、正々堂々と修煉する弟子であれば、それでは皆さん考えてみてください。周りの人がそれを見て、「あっ、この人たちは皆法輪功を煉っています。とてもいいですね」と思うようになります。どこにおいても人から信頼され、どこにいても良い人であれば、法輪功は素晴らしい、大法は素晴らしいと周りの人が言います。それで、あなたは常人という次元で大法に圓容しているのではありませんか？　こういう道理ではありませんか？　ですから、私たち自身の振る舞いが大法に符合していなければ、法に圓容するどころか、大法の顔に泥を塗り、法を破壊してしまいます。法があなたを済度しているにもかかわらず、あなたが法を破壊するなら、この関係をどう扱えばいいでしょうか？　どのようにあなたを判断すればいいでしょうか？　修煉は厳粛なことです。業力だらけの人が圓満成就に達したければ、厳粛でなくていいのでしょうか？　この世にこれよりもっと偉大で、もっと厳粛なことが他にあるでしょうか？

弟子：『轉法輪』を通読する時、なかなか馴染めないのです。大学の教科書の文章の風格とどうも違っているように感じますが、これは個人の縁や業力と関係がありますか？

師：これは一部の知識人が法を得る妨げとなっていますので、破らなければいけません。彼の既成観念が彼を阻んでいます。彼の現代文学に対して形成された観念が新八股であると言うならば、認めたくない人がいると思います。しかし、あくまでも定義のある語彙を羅列しているだけで、更なる深い内涵はありません。これは今日の言葉、人間の浅はかな言語です。また、定義づけられた言葉は最も浅い意味しか表せません。このような言葉で大法を表現するにはとても足りません。先生の本が近代の文法にあっていないという人もいますが、これについて私は全面的に認めます。確かに近代の文法にあっていません。しかし、あることについて考えたのでしょうか。法は異なる次元にいる生命に生存の条件と環境を切り開いてくれました。その中に言語と文字も含まれています。つまり、人類の今日の文化も法が切り開いてくれたのです。それでは、この宇宙の大法は人間の文法の規則に制約されていいのでしょうか？　私たちはただ人間の言語や文字、文法を利用して法を表現しているにすぎません。どう利用するか、それは私たちの自由です。もっと深い内涵を如何に明確に伝えられるかと、言葉を駆使しています。従って、私は近代の文法を完全に破り、その規範に全く従っていません。私が説法している時も規則に合う言葉を使っていません。こうしてはじめてこの法を明確に伝えることができます。こういうことです。法、これほど大きな宇宙の法は人間の言葉に縛られてはいけません。私はただ人間の言葉を利用しているだけです。どのように利用するかにあたって、どう並べてもいいのです。法を伝えることさえできれば、私はうまく表現できる順序で言葉を並べています。法はこれからの人類にも新たな言語と文化を創造するので、全てを最高の状態に回帰させなければいけません。ですから、今慣れないのはあたりまえのことです。

弟子：足を怪我したことがありますが、結跏趺坐ができるようになりました。しかし最近は何故か、どうしても結跏趺坐ができないのですが？

師：それは自分に原因を聞いたほうがいいのです。法の勉強において精進しなくなったのか、或いは過ちを犯しても改めたくなく、またはそれを悟っていないのではないでしょうか？　もし今日、法に符合し、物事に正しく対処できたら、元々十分しか結跏趺坐ができなかったにもかかわらず、今日はきっと二十分結跏趺坐

ができます。多くの学習者にはこういう経験があります。しかし、物事は絶対的ではありません。最近、比較的大きい業を滅する場合にも、このような現象が現れてきます。

弟子：幾つかの信息を受け取りましたが、どうすればそれが自分の思惟ではなく、覚者から伝えられてきたものだと区別できるのでしょうか？

師：どんな信息を受け取っても、気にしないでください。気にし始めると、それに執着することになります。そうすれば、いろいろな形であなたを邪魔したり、信息を与えたりして、あなたを妨害します。このような能力が閉鎖されていないのも良いことですが、自分をしっかり制御すべきです。どんな信息が聞こえても、見えても、それを気にしないでください。ただひたすら大法に従って修煉してください。道理は既に文字にしたので、まだ信息などに構う必要があるのでしょうか。偽りの信息に少しでもだまされたら、あなたはすぐに落ちてしまいます。とても容易いのです。ですから、この問題について、くれぐれも気をつけてください。

弟子：高い次元の空間で誕生した生命が落ちてきて、修煉を通じてまた元に戻れば、元とはどういう区別があるでしょうか？

師：高次元生命は人が考えるほど簡単に落ちて来ることはありません。それほど簡単なことでしょうか？　ただこのような現象は存在しています。修煉してまた元に戻るということになると、それはもっと難しいことです。あなたはこのわずかな言葉で書きましたが、そう簡単なことではありません。皆さんはどのように法を得たのかご存知ですか？　あなた達が地球に転生し、ちょうどその時に生まれなければならず、済度してくれる人の誕生に恵まれ、更に、人を済度できる大覚者に巡り会い、この法を聞くことができることは、本当に簡単なことではありません。法を得たら更に修め続けていかなければなりません。昔、釈迦牟尼の弟子の中に、彼の説法に不信を抱いている人もいました。昼に法を聞いて出家し、つまらなくなり、夜、袈裟を脱いで逃げてしまうこともしばしばありました。佛がこの世を去って長い歳月が経ってから、これが真理だと次第に皆が気付いて、やっと大事にするようになりました。本当に修煉して元に戻れば、元と何も変わりはありません。

弟子：「上士、悟りによって圓満成就する」、「真相が現れれば」の具体的な内涵

を説明していただきたいのです。

師：「上士、悟りによって圓満成就する」。皆さんに教えましょう。今在席の皆さんは殆ど悟りで圓満成就します。真相を見せません。いずれかの執着心が起きるのを心配しているので、そうしました。続けて修煉し、絶えず精進していく人は私に言わせると本当に素晴らしいのです。将来上まで修めていったら、誰でも感心します。これは悟りで圓満成就に達するという意味です。神通が顕現し、何でも見えるなら、修めることが遅くなるだけでなく、もし本当に全てが明らかになれば、それはあなたが修めたとは言えなくなります。もし私が迷いを少しでも破ったら、高い次元から来た人にとっては、迷いを少し破っても、元のところに戻れなくなります。ですから、どんな次元から来た人に対しても、そうしなければなりません。真相が一旦顕れたら、修めにくくなります。人への要求も高くなり、修煉方法も厳しいので、向上も今のような速いものではなくなります。

弟子：卵を割ってしまったことは殺生といいますか？

師：正々堂々と修煉してください。実は私は先ほどこの道理についてはっきり説明したと思います。人間の生活を送っているので、あなたが肉を食べなくても、家族は肉を食べます。あなたは修煉していますが、家族は修煉しないかもしれません。最大限に常人に符合しながら、修煉します。大事なところに着眼して正々堂々と修煉していけば、このようなことにも、うまく対処できます。精進料理を食べているからといって佛になれるというのは冗談です。それではただ一つの心しかなくすことができず、つまり肉や葷に対する執着がなくなり、この心だけです。しかし、人間がなくすべき心は山ほどあるのに、一つの心を取り除いただけで、どうして成佛できるのでしょうか？　絶対不可能です。常人の中で正常に修煉できるように、このことにおいて最も入りやすい門を開きました。卵を食べたければ、食べられる時に食べればいいのです。ただし、出家した人は別です。

弟子：どうすれば、深く隠れている執着心をもっと早く取り除けるでしょうか？

師：私はそれを分からせますが、いざその時になると、あなたはそれを取り除かない恐れがあります。必ず分からせます。全ての心を曝け出します。私でなくても、他の人から分からせます。トラブルが起きる時、あなたのこの部分を叩くかもしれませんが、その時になるとまた外に向かって探し、それらの心に触れない恐れがあります。必ず分からせます。安心してください。

弟子：弟子は随時に師父について行きたいのですが、圓満成就の壮挙の時を知ることができますか？

師：圓満成就すべき人が取り残されることはありません。修煉に専念し、わき見をしないでください。私は皆さんに羅漢の物語を話したことがあります。そうでしょう？　恐れる心や喜ぶ心のどちらがあっても、圓満成就できません。更なる高い次元での圓満成就に達したい場合、あなたに対する要求が更に高くなります。全ての心を放下してください。その一瞬にいろいろな雑念が出てきたら、あなたは本当に圓満成就できなくなり、足を引っ張られることになります。

弟子：先生の説法はますます明らかになり、悟る必要がなくなりますが、これでも修煉と言えるでしょうか？

師：皆さんがここに座っているとはいえ、私の話に対して、各自それぞれの次元で理解しており、決して一様なものではありません。（拍手）　私が皆さんに言うことはやはり同じ言葉ですが、つまり、それほど高い理を説きましたが、私はただ概括的にその表面を話しただけで、実質的な部分を皆さんに知られてはいけません。知られたとしても、その修煉は依然難しいのです。私が説いているのはただ一つの理で、真相を示しているわけではありません。従って、それはまだ謎のままで、信じる人と信じない人はやはり同時に存在します。

弟子：週に三回グループで『轉法輪』を通読していますが、交流の時間があまりありません。これでいいでしょうか？

師：大丈夫です。多くの時間を費やして何を交流するのでしょうか？　通読し、時間は全て法の勉強に使ってください。（拍手）　もちろん、時間を作って自分の体験を話し合うことも必要です。毎日煉功後に互いに切磋琢磨してもかまいません。

弟子：教育レベルと理解力の間にどのような違いがあるのでしょうか？

師：少し違いがあります。字が読めない人は本を読めません。読めない字があれば本を読むのに困難があります。現代人は全て近代のこの科学によって育てられているので、私も現在の科学、現在の文化に結び付けて話すしかありません。も

し名詞の意味合いを理解できなければ、これによって違いが生じ、勉強する際、難しく感じます。しかし、努力すれば、得るべきものは何一つ漏れることはありません。

弟子：恋愛問題にずっと悩まされています。彼氏と喧嘩すると、すぐ別れたくなりますが、それが逃避だとも思ってしまいます。彼と仲直りするのは恋への執着なのでしょうか？

師：これは別の話だと思います。お教えしましょう。常人社会から離脱し、圓満成就に至るまで、あなたの情はずっと存在しています。これはあなたが常人社会で修煉できることを保障する方法の一つです。それでは、情があれば、あなたの心もこの情に振り回されます。あなたができることはただできる限りそれを抑えることです。できるだけ修煉者としての状態を保ち、常人のように思うままに行動しないことです。少なくとも良い人になろうと努力します。これが常人と異なるところです。もちろん、あなたが恋愛したり、結婚したりすることに何の影響もありません。ただこのような関係です。既にお話ししましたが、最大限に常人社会の状態に符合しながら修煉します。もしどうしても恋愛したくない、一生結婚したくないと思うのなら、それは個人の問題になります。結婚したくなければ、しなくてもいいのです。無理に要求しません。全てのことは皆そうです。しかし、弟子として、身を清らかに保たなければいけません。

弟子：友人からプライベートのことを聞かれた時、私は嘘をついてもいいのでしょうか？

師：話したくないなら、話さなくていいのです。できるだけ話しません。常人の言うことは、たいしたことではなく、最大限に常人の中で修煉できる傍ら、修煉者としての基準にも符合できれば、そうすればいいのです。

弟子：人を傷つけず、余計な面倒を避けるために嘘をついてもいいですか？

師：この世のことはとても複雑です。各種の複雑な環境が作り出したその問題も、きわめて複雑です。しかし、皆さんにお教えできるのは、修煉者は嘘をつきません。もし、本当に殺人や放火事件を阻止するためにつく嘘であれば、それはあなたの間違いとは言えません。この関係をどのように調和させるかです。修煉者にとって難しい問題ではないと思います。実は言いたくないことがあれば、言わな

くていいのです。

弟子：修煉して一年経ちましたが、まだ結跏趺坐ができません。できなければできないほど、焦りがつのります。

師：大丈夫です。どうしても結跏趺坐ができなければ、それができないからといって圓満成就させないことはありません。しかし、修煉者としてあなたは結跏趺坐ができるようにしなければなりません。教えますが、冗談ではなく、修煉者として良く修めているのに足が組めなければ、上にいる菩薩も口を隠しながらあなたを笑っています。本当にそうです。でも焦らずに、だんだんできるようになります。私は時間が足りないと言ったことはありません。

弟子：どうして煉功、或いは法を学ぶ時、腰のあたりが暖かくなるのでしょうか？

師：人の修煉中に現れる状態は千種万種にも留まらず、いろいろな状態が現れます。あらゆる状態を私にいちいち聞くのであれば、あなたはどう修煉しますか？あなたはまだ修煉者ですか？　ですから、このようなことを気にせず、自然に任せてください。自然に任せます。修煉者は寒さにも暑さにも強く、風にあたっても病気になりません。

弟子：夫婦仲の睦まじさも定められたものですか？

師：これは特に定められたことではありません。しかし、業力の報いがあり、業力によるものです。夫婦の大多数は前世で来世の縁が作られているのです。大体そうですが、絶対ではありません。

弟子：大法を修煉しても、観音様を祀ることはできるのでしょうか？

師：本を読んでください。この質問にはお答えしません。多くの学習者は私に「先生、どうしてわが国にいらっしゃいませんか。先生、どうして私のいる地区にいらっしゃいませんか？」と聞きます。行かないのではなく、皆さんが法に対して一定の認識を持ち、成熟してくるのを待って、それから行きます。こうしたほうが皆さんのためになります。（拍手）　もし私が行って、法輪功はどういうものですかというような質問をされるのであれば、行っても無駄になってしまいます。そうではありませんか？　先ほどの質問のように、私たちは時間があまりないの

ですが、本を読まずに、ここで「観音様を祀ってもいいですか？」と質問するのであれば、私が説いてきた法は無駄になります。このような道理ではありませんか？

弟子：先生はこのようなことをおっしゃったことがあります。「私はこの法の中にいません」。どう理解したらいいのでしょうか？

師：これが理解できないことはないでしょう？　私はこの宇宙の外にいられないというのですか？　（熱烈な拍手）

弟子：ある日の早朝3時ごろ、空を眺めていた際、はるか上空から星が私に向かってくるのを見ました。数十メートルの距離になった時、私が緊張すると、それがなくなりました。

師：他の空間からこの宇宙を見ると、全ての物体は不変なものではありません。存在方式もこの空間と違います。そこの時間場の構成も、私たちのこの空間の時間と絶対同じものではありません。ですから、この空間の全ての概念を用いても解釈できないのです。あなたが見たということは良いことです。

弟子：学習者は自主的に『轉法輪（巻二）』をコピーしたり、印刷したりして、煉功場でまわしています。

師：『巻二』はその後、ずっと再版していません。中に佛教の痛いところを突くところがあったので、もうできるだけ触れないようにしています。再版はしていません。何らかのルートで入手して自分で読むにはかまいませんが、複製して人に配布したりするのはだめです。

弟子：昔の人は古箏を弾く時、お香を焚いていました。今もそうしていいのでしょうか？

師：それは修煉ではないのでしてもかまいません。お香を焚いてその古琴を弾くことは、中国古代の人の琴棋書画における雅興なので、それには反対しません。しかし、修煉によって次元が向上していくにつれ、あなたは全ての常人の心が薄くなったと気付きます。ますます薄くなっていきます。ただし、現段階ではどんなことも無理にしないでください。

弟子：討論を少なくして、『轉法輪』を読み続け、法を多く学ぶほうがいいと思う人がいますが、これは偏った理解だと私は思います。

師：実は本を多く読み、法を多く学ぶべきです。もし読むことに疲れたら、ちょっと休憩して自分の得たものについて話し合っても、大丈夫です。しかし、法が良いか悪いかについて議論してはいけません。自分の得たものについて話すことにあまり時間をかけないでください。法を多く学び、よく本を読みます。そうすべきではありませんか？　人間は一つの容器のようなもので、何かを入れたら、そのものになります。法を入れたら法に同化することになり、土を入れれば土になります。

弟子：第五式の功法にかかる時間は長いのですが、時間の把握はどうすればいいでしょうか？

師：絶対的な制限はありません。自分の能力に合わせて行なってください。具体的な制限はありません。この五つの功法を一通り行なうにはちょっと時間がかかります。しかし、まだできなければ、途中で休憩をしてから続けてしていいのです。ただし、自分に高く要求しなければいけません。できるだけ堅持してください。

弟子：修煉の時間は厳しいものですが、煉功と法を学ぶ時間の割合をどう扱えばいいでしょうか？

師：割合などはありません。時間が厳しいと言ったのは、精進してほしいからです。その先のことを私は言及したこともありません。ひたすら法を学び、修煉してください。煉功と法を学ぶ時間の割合は、つまり、たくさん法を学び、煉功は朝晩にすればいいのです。夜中に起きて坐禅してもいいのです。

弟子：家で煉功するのと、集団で煉功する効果が同じであれば、車で往復一時間半をかけ、毎週の集団煉功に参加する必要がありますか？

師：家で煉功するのと外で煉功するのは同じです。ただし、家でするより、外で煉功するほうがあなたを煉功させる外因があります。例えば、みんなで結跏趺坐をしていれば、痛くてたまらなくても、皆が崩していないのを見て、あなたも崩

せなくなり、時間を延長することができます。一人一人の言行は大法弟子らしくなります。私たちのこの環境はきわめて貴重で、世間の如何なる環境にも、私たちのような清浄なところはありません。これは家では得られないものです。家にいると怠けて、煉功が多くなったり少なくなったり、精進したりしなくなったりして、弛んでしまいます。もし、本当に自分をコントロールして修煉できれば、それは同じです。あなたにはまだ常人の心があり、自分をきちんとコントロールできないので、私は皆さんに外で煉功するように求めています。

また、私たちはいつも法を広め、多くの人に法を得てほしいと言いますが、皆さんは考えたのでしょうか。多くの人が煉功している場面は最も良く法を広めているのです。どうして協力しないのですか？　どうして圓容しませんか？　もちろん、もし家が遠く、来るのが不便であれば、家で煉功してください。もし将来、人が増えてきたら自宅あたりに煉功場を設ければ、それはもっと便利になります。

全ての質問に答え終わりました。大手印を打ってほしいという人がいます。(拍手)　この熱烈な拍手を見ると、皆さんは私に打ってほしいようですが、そうですか？　では、皆さんに一式の大手印を打ってお見せします。